

2

Annual Report 2012

診療科

外来診療担当表

循環器内科

呼吸器内科

神経内科

内分泌内科

外科

脳神経外科

心臓血管外科

小児科

泌尿器科

皮膚科

放射線科

耳鼻咽喉科

麻酔科

病理部

糖尿病センター

リウマチ・膠原病センター

人工透析センター

認知症疾患医療センター

消化器内視鏡センター

健康増進センター

学会発表実績

外来診療担当表

(非)=非常勤、(再)=再診

		月		火		水		木		金		
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
内科	呼吸器	小林 奨		大島 一浩				小林 奨				
	内分泌							安部 恵代 (非再第2)	大財 茂 (非)	藤山 薫 (非)		
	骨代謝										藤山 薫 (非)	
	腎・透析		浪江 智						浪江 智 (再)	林 和歌 (非再)	林 和歌 (非再)	
	神経科	新患					竹尾 剛		吉村 俊朗 (非)			
		再来	竹尾 剛		竹尾 剛				吉村 俊朗 (非)		竹尾 剛	
	リウマチ膠原病センター	新患	一瀬 邦弘 (非)		岩本 直樹 (非)	岩本 直樹 (非)	植木 幸孝		西野 文子		岩永 希	
		再来	植木 幸孝		岩永 希		西野 文子	寺田 馨	西野 文子		植木 幸孝	
			岩永 希		岩本 直樹 (非)	岩本 直樹 (非)						寺田 馨
	糖尿病センター	新患	藤島圭一郎 (非)				尾崎 方子		尾崎 方子		松本 一成	
再来		松本 一成		松本 一成 藤島圭一郎 (非)	尾崎 方子	藤島圭一郎 (非)	松本 一成	松本 一成 藤島圭一郎 (非)		尾崎 方子		
循環器内科	新患	木崎 嘉久		矢野 捷介 (非)		中尾功二郎		木崎 嘉久		矢野 捷介 (非)		
	再来	赤司 良平		中尾功二郎		木崎 嘉久		中尾功二郎		木崎 嘉久		
				高原 靖		赤司 良平						
	検査外来		(中尾功二郎)	(木崎 嘉久)		(高原 靖)		(赤司 良平)		(中尾功二郎)		
		(高原 靖)	(赤司 良平)				(高原 靖)		(赤司 良平)	(高原 靖)		
消化器内科	消化管	山道 忍		松崎 寿久	富永 雅也 (再) 竹島 史直 (非隔週)	小田 英俊	磯本 一 (非隔週)	小田 英俊		大石 敬之		
	肝胆膵	草場麻里子 (非)		木下 昇		松崎 寿久		山道 忍		木下 昇 大石 敬之		
	内視鏡担当	小田 英俊		大石 敬之		草場麻里子 (非)		大石 敬之		小田 英俊		
		松崎 寿久		山道 忍		木下 昇		松崎 寿久		山道 忍		
		中尾 治彦		中尾 治彦		富永 雅也		木下 昇		中尾 治彦		
				中尾 治彦		橋爪 聡 (非)						
人工透析	浪江 智 林 和歌 (非)	浪江 智 林 和歌 (非)	浪江 智	浪江 智	浪江 智 林 和歌 (非)	浪江 智 林 和歌 (非)	浪江 智	浪江 智	浪江 智 林 和歌 (非)	浪江 智 林 和歌 (非)		
外科	新患	梶原 啓司	※	草場 隆史	※	碓 秀樹	※	武岡 陽介	※	羽田野和彦	※	
		重政 有								佐々木伸文		
	再来	碓 秀樹		菅村 洋治 (非)		梶原 啓司	羽田野和彦	重政 有		碓 秀樹		
(名誉顧問外来)	國崎 忠臣 (非)				國崎 忠臣 (非)							
脳神経外科	阪元政三郎	※	※	※	阪元政三郎	※	※	※	※	阪元政三郎	※	
	吉野慎一郎					衛藤 達 (非)				吉野慎一郎		

2013年3月31日現在

	月		火		水		木		金		
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
心臓血管外科	※	※	柴田隆一郎	※	※	※	柴田隆一郎	※	※	※	
			谷口真一郎				中路 俊				
皮膚科	山口 宣久	※	山口 宣久	※	山口 宣久	※	山口 宣久	※	山口 宣久	※	
小児科	山田 克彦	循環器外来 (第1, 第3, 第5週)	山田 克彦	乳幼児健診 予防接種	山田 克彦	心身症外来	アレルギー外来	アレルギー外来 (第4週休診)	山田 克彦	乳幼児健診	
	犬塚 幹	心身症外来 (第2, 第4週)	犬塚 幹	神経外来 (第1週休診)	犬塚 幹		犬塚 幹	神経外来	犬塚 幹	生活習慣病 外来 (隔週)	
泌尿器科	新患	徳永 亨介	※	南 祐三	※	徳永 亨介		南 祐三	※	徳永 亨介	
	再診	南 祐三		徳永 亨介		南 祐三	南 祐三 (前立腺)	徳永 亨介		南 祐三	
眼科			上松 聖典 (非)								
耳鼻咽喉科	大里 康雄	※	大里 康雄	※	大里 康雄	大里 康雄	大里 康雄	※	大里 康雄	※	
	※						※				
放射線科	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	
	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	
放射線 治療計画					山崎 拓也 (非)	山崎 拓也 (非)					
救急総合 診療部☆	内科系	木下 昇 大島 一浩 中尾功二郎	高原 靖	尾崎 方子	担当医	山道 忍	大石 敬之	赤司 良平	岩永 希	西野 文子	大島 一浩
	外科系	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
メモリー クリニック (もの忘れ外来)	井手 芳彦		井手 芳彦		井手 芳彦		井手 芳彦			井手 芳彦	
専門 外来	インター フェロン		木下 昇 14:00-16:00 (新患紹介のみ)								
	ペース メーカー		木崎 嘉久 中尾功二郎 14:00-16:00 (第2,4)								
	乳 腺		佐々木伸文 14:00-17:00 (第2,4)			碓 秀樹 14:00-17:00				佐々木伸文 13:30-16:30	
	ストーマ				重政 有 14:00-16:00 (第2)						
	禁 煙				菅村 洋治 (非) 13:30-15:30 (第2,4)						
	ステント グラフト				谷口真一郎 13:00-14:00						
	下肢静脈瘤							柴田隆一郎 14:00-15:00			
	C A P D							林 和歌 (非) 14:00-15:00 (4週1度再診)			
睡眠時無 呼吸外来							植木 幸孝 9:30-10:30 (第3)				
健康増進 センター	寺園 敏昭		寺園 敏昭		寺園 敏昭		中尾 治彦		寺園 敏昭		
	板倉 英世 (非)		野々下晃子 (非)		寺田 馨		寺園 敏昭		松永 陽一 (非)		
			板倉 英世 (非)		山本美保子 (非)		寺田 馨				
乳がん検診	佐々木伸文		碓 秀樹		佐々木伸文		碓 秀樹		武岡 陽介		
健診婦人科 (特別顧問外来)	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之		

※:主に手術・検査の予定ですが、予定が無い場合は診察いたしますので受診ご希望の方は予約をお願いいたします。

土曜日は、休日診療体制とさせていただきます。

Dept. of Cardiology

循環器内科

急性心筋梗塞をはじめ循環器疾患にオンコール体制で365日・24時間対応しています。

診療担当医 ※2013年3月末日現在



副院長・診療部長
木崎 嘉久
(きざき よしひさ)

長崎大学 昭和59年卒
日本内科学会認定内科医・認定総合内科医・指導医
日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医
同九州地方会運営委員
日本高血圧学会専門医・指導医
日本循環器学会認定専門医
日本医師会認定産業医
長崎県急性心筋梗塞検討委員会 委員



部長
中尾 功二郎
(なかお こうじろう)

長崎大学 平成2年卒 医学博士
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
日本循環器学会認定専門医
日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医



医員
赤司 良平
(あかし りょうへい)

宮崎大学 平成18年卒
日本内科学会認定内科医



医員
高原 靖
(たかはら やすし)

2013年6月退職

久留米大学 平成20年卒



医員
本田 智大
(ほんだ ともひろ)

2013年6月就勤

佐賀大学 平成22年卒



非常勤
矢野 捷介
(やの かつすけ)

長崎大学 昭和41年卒 医学博士
長崎国際大学 健康管理学部長
長崎大学医学部名誉教授
日本老年医学会認定老年病専門医・指導医
日本循環器学会認定専門医・日本内科学会認定内科医

診療内容

狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、高血圧症、不整脈など、心臓疾患や循環器疾患を対象に、心臓超音波検査、心臓カテーテル検査（緊急対応可）や64列MDCT（マルチスライスCT）を使用して、冠動脈、大血管などの評価、心臓核医学検査など専門的な診断および治療を行っています。急性心筋梗塞には常時オンコール体制で365日・24時間対応しています。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

- 〈虚血性心疾患〉急性心筋梗塞、狭心症など
- 〈高血圧症〉本態性高血圧症、二次性高血圧症など
- 〈不整脈〉頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、心房細動など
- 〈心臓弁膜疾患〉僧帽弁膜症、大動脈弁膜症や先天性心疾患など
- 〈心臓心筋疾患〉心膜炎、心筋炎、心筋症など
- 〈血管疾患〉大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症など

診療実績

外来診療は平日午前中に新患、再来各1名で行い、専門外来としてペースメーカー外来を第2および第4月曜午後に実施しています。平日午後には血管インターベンション加療（PCI）やカテーテルアブレーション加療

（ABL）などの各種検査と治療を中心に診療しています。新患紹介や冠動脈CTA検査などの予約は連携センターで対応しており、また、メディカルネット99からの直接予約も可能となっています。

救急受入れは、平日日勤帯は常時対応しています。時間外は内科系当直での対応となりますが、急性心筋梗塞や重症心不全症例など緊急治療を要する場合は循環器内科当番医(オンコール)で加療しています。緊急心臓カテーテル検査も24時間常時実施可能です。

心臓リハビリテーション指導士による運動療法やPCIや末梢血管形成術(PTA・PTR)、不整脈加療としてペースメーカー加療、ABL、心臓再同期療法(CRT)と難治性・致死性不整脈疾患へ植込み型除細動器(ICD)、両者を併せた両室ペースング機能付除細動(CRT-D)治療、他に大動脈内バルーンポンプ(IABP)や経皮経管的心肺補助システム(PCPS)による補助循環システムを利用した加療を実施しています。多科連携での血管内カテーテル治療となる大動脈STENT,graft留置(EVAR・TEVAR)、頸動脈狭窄へのSTENT加療(CAS)なども施設基準制定を受けて加療を行っています。

地域医療連携の一環としてAMI・PCI地域連携パスを2006年5月より稼働、2013年3月までに地域医療機関81施設との間で、延べ251症例で運用しています。

■主な診療実績 2012年(1/1-12/31)

心エコー図検査	2,689例
心臓カテーテル検査	346例
大動脈CT	246例
心臓CT(冠動脈CTA)	246例
心筋シンチ	235例
心血管インターベンション加療	167例
体内式ペースメーカー植込み(CRT・ICD含む)	56例
末梢血管インターベンション加療	40例
年間入院数	535名

(うち急性心筋梗塞47名)

■循環器関連機器

・心エコー図装置	3台
Toshiba社製 Aplio(腹部・表在血管など汎用型)	
・64列MDCT	1台
PHILIPS社製 Brilliance64	
・血管造影装置	2台
PHILIPS社製 Arura(汎用型)	
Toshiba社製 Infinix Celeve-i INFX-8000C	
・負荷 ECG装置	
エルゴメータ	1台
トレッドミル	1台
・RI装置	1台
・MRI 1.5T	1台
3.0T	1台

(心血管用MRA対応可)

認定施設

- ・日本循環器学会認定教育施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定教育関連施設
- ・日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
- ・日本高血圧学会認定研修施設
- ・両心室再同期療法・植込み型除細動器治療(CRT-D)実施認定施設
- ・胸部-腹部大動脈STENT留置(EVAR・TEVAR)
- ・心大血管疾患リハビリテーション認定(I)

Dept. of Respiratory Medicine

呼吸器内科

肺や縦隔、胸壁の疾患の患者さんを対象に、診断および内科的な治療を行っています。

■診療担当医 ※2013年3月末日現在



副部長
小林 奨
(こばやし つとむ)

長崎大学 平成11年卒 医学博士
日本内科学会認定内科医
ICD(インフェクション・コントロール・ドクター)



医長
田中 章貴
(たなか あきたか)

2013年4月就勤

長崎大学 平成16年卒
日本内科学会認定内科医



医員
大島 一浩
(おおしま かずひろ)

2013年3月退職

山口大学 平成20年卒
日本内科学会認定内科医

診療内容

診療している主な疾患は以下のとおりです。

呼吸器感染症(かぜ症候群、急性気管支炎、肺炎、誤嚥性肺炎、肺化膿症、肺結核、非結核性抗酸菌症、肺真菌症等)

慢性閉塞性肺疾患(肺気腫、慢性気管支炎)

アレルギー・免疫疾患(気管支喘息、好酸球関連肺疾患、膠原病合併肺疾患、サルコイドーシス等)

間質性肺疾患(間質性肺炎「肺線維症」、過敏性肺臓炎、塵肺等)

肺腫瘍(原発性肺がん、転移性肺がん、肺良性腫瘍、中皮腫等)

気管支拡張症

びまん性汎細気管支炎

慢性呼吸不全(在宅酸素療法等)

慢性咳嗽

診療実績

入院は主に5階西病棟で診療しています。しかし、入院患者数の増加に伴いその他病棟で診療する機会が増えていきます。専門性の高い疾患が多いため、新病棟竣工後はなるべく一つの病棟で管理できるようになることを希望しています。入院で最も多い疾患は肺炎です。特に誤嚥性肺炎は多く、当科以外の内科の先生にも診療していただいている状況です。もう1人常勤の医師がいればカバーできますが、現時点で全てを受け持つことは困難です。また、肺がんも増加しております。一般的に呼吸器内科では肺がんの入院患者さんが半数を占めることが稀ではないことから、今後も増加することが予想されます。結核に関しては入院後判明したものは少なく、前もって疑い隔離していたか排菌陰性例(治療導入後、肺外結核)が多数であり、感染伝播を未然に防ぐことがで

きています。しかし、施設面では万全と言うことができません。簡易陰圧室も各階西病棟に設置されましたが、十分な対策とは言えません。重症のインフルエンザ肺炎などを診療することもあわせて考えると感染症病棟(3~5床)設置も必要と考えます。

外来は月曜日、火曜日、木曜日の午前中です。しかし、外来患者数の増加に伴い午後まで外来診療を延長することが常態化しており、午後枠を設ける必要が出てきています。

結核の症例も少なくないため十分な注意が必要です。現在、結核疑いの症例は通常外来での診療ではなく、相談室を利用し他の患者さんから隔離しています。新病棟竣工後は感染症外来で診療可能となる予定であり、空気感染する結核への防御がより高まります。

■主な診療実績

(入院)

	2009年	2010年	2011年	2012年
入院延患者数	2,220名	7,640名	7,927名	8,088名
実入院患者数	116名	423名	380名	397名
退院患者数	109名	416名	376名	389名
(当科 / 全科)	(1.96%)	(6.98%)	(6.70%)	(7.01%)
平均在院日数	20.9日	17.4日	21.1日	21.1日
気管支鏡症例数	122件	403件	243件	211件

(外来)

	2009年	2010年	2011年	2012年
外来新患者数	140名	296名	312名	297名
外来再来患者数	727名	1,732名	2,183名	2,353名

Dept. of Neurology

神経内科

パーキンソン病や多発性硬化症など神経難病の専門的診断・治療を実施しています。

■診療担当医 ※2013年3月末日現在



診療部長
竹尾 剛
(たけお こう)

長崎大学 昭和59年卒
医学博士
日本神経学会認定専門医・指導医
日本内科学会認定内科医
日本医師会認定産業医



非常勤
吉村 俊朗
(よしむら としろう)

長崎大学 昭和51年卒
医学博士
長崎大学 医歯薬学総合研究科 教授
日本神経学会認定専門医・指導医
日本内科学会認定内科医

診療内容

頭痛、めまい、手足のしびれ・震え・脱力、歩行障害、意識障害などの診断と治療が専門です。問診は特に重要で、症状の変化から病気の種類を推定します。発症してからピークに達するまでの時間により病気の種類が予測できます。脳梗塞などの血管障害ならば数分以内に症状が完成することが多く、脊髄小脳変性症やパーキンソン病などの変性疾患では数年以上かけて徐々に悪化することが多いといったように、病気の種類によって、臨床経過が異なり、診断の上で、大きなヒントとなります。

次に、神経学的な診察を行い、病気の責任病巣の場所を推定します。脳神経領域や運動系・感覚系、深部腱反射・病的反射などを系統的に診察し、どこに病変があるのかを絞り込みます。

このようにして、病気の種類と場所がわかれば、ほとんどの疾患を診断することができます。

上記で得られたベッドサイドの診断を裏付けるために、MRI・CTなどの画像診断や、神経伝導検査・筋電図・脳波などの生理検査、あるいは筋生検・神経生検といった病理検査などの必要な検査を行って、確定診断に導き、治療に繋げて行きます。

診療実績

吉村の外来診療は、新患・再来ともに、毎週木曜日の午前中となっており、残りの月・火および金曜日の午前中は竹尾の再来、毎週水曜日の午前中は、竹尾の新患外来となっています。

常勤医は1名のため、オンコール体制は採用していませんが、緊急時には連絡可能な体制を採っています。

新患紹介の予約は連携センターで対応しています。

神経内科の特徴は、緊急を要する疾患が比較的小さいのに対し、難病や希少疾患が多いといった点が挙げられます。このため、一般内科に比べると、一人ひとりの診察に要する時間が長く、ご紹介いただいてから実際に診察に至るまでのタイム・ラグが長いといったご意見も開

業医の先生方から伺いますが、上記のような特徴をご理解いただき、予約診療にご協力いただきたいと思います。

また難病の特性上、様々な身体機能障害を有する症例が多く、同じく白十字会に所属する耀光リハビリテーション病院と提携して、専門的な理学療法・作業療法のみならず、嚥下・言語障害や高次脳機能障害に対するリハビリテーションをシームレスに行うことを心がけています。

2011年には日本神経学会より準教育施設に認定され、研修医をはじめとした若手ドクターの教育にも携わっていきたいと考えています。

■主な診療実績(入院患者)

・脳血管障害	17名
・神経変性疾患	
パーキンソン病	11名
筋萎縮性側索硬化症	2名
不随意運動疾患	1名
脊髄小脳変性症	1名
他のパーキンソニズム(PSP、CBDなど)	1名
・自己免疫性中枢神経疾患(MS、NMO、脊髄炎など)	16名
・認知症性疾患	
レビー小体型認知症	4名
アルツハイマー型認知症	3名
その他	7名
・てんかん	10名
・末梢神経疾患(GBS、CIDPなど)	8名
・神経感染症	6名
・内科疾患・代謝性疾患に伴う神経障害	5名
・筋疾患(筋炎、ジストロフィーなど)	3名
・めまい	3名
・頭部外傷	2名
・脳脊髄液減少症	2名
・頭痛	2名
・その他	
精神疾患	6名
感染症(肺炎、尿路感染症など)	6名
整形外科的疾患	5名
その他	4名

■臨床検査実施件数

脳MRI、MRA	134件
脳CT	82件
脊椎(頸椎、胸椎、腰椎)MRI	82件
神経伝導検査	69件
脳波	35件
脳血流SPECT	10件
筋生検	7件
針筋電図	4件
神経生検	1件

認定施設

日本神経学会認定准教育施設

Dept. of Endocrinology

内分泌内科

バセドウ病や橋本病などの女性に多い甲状腺疾患の診療を行っています。

■診療担当医 ※2013年3月末日現在



非常勤
大財 茂
(おおたから しげる)

長崎大学 昭和52年卒 医学博士
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医
日本東洋医学認定専門医

非常勤
藤山 薫
(ふじやま かおる)

長崎大学 平成元年卒 医学博士



非常勤
安部 恵代
(あべ やすよ)

長崎大学 平成6年卒 医学博士
日本内科学会認定内科医

診療内容

内分泌内科は甲状腺、副甲状腺、下垂体、副腎、骨粗しょう症を含む骨カルシウム代謝疾患を対象として診断・治療を行っています。

甲状腺疾患は頻度が多く、診療の中心になっています。バセドウ病や橋本病などの自己免疫性甲状腺疾患

は若年から中年女性に多い疾患で、妊娠・出産時は重点的管理を行います。甲状腺がんでは超音波検査や細胞診を行っています。内分泌疾患診断のため、必要に応じてCTあるいはMRI検査に加え、RI検査で甲状腺、副甲状腺、副腎シンチグラムも行っていきます。

診療実績

診療体制は、非常勤医師3名で対応しています。大財は耀光リハビリテーション病院院長を兼務し、毎週木曜日の午後に来院診療を当院にて行っています。藤山は毎週金曜日に午前中に内分泌、午後は骨代謝疾患を中心に診療を行っています。また、安部は月に1度、第2木曜日に長崎大学病院より来院し外来診療を行っています。

超音波(甲状腺)件数

医師名	件数
大財 茂	242
藤山 薫	74
安部 恵代	10
総計	326

Dept. of Surgery

外科

専門医による高度の医療を提供する体制を整備。患者さんのQOLを重視した縮小手術も積極的に実施しています。

■診療担当医



院長補佐・診療部長
碓 秀樹
(いかり ひでき)

長崎大学 昭和58年卒
医学博士
日本外科学会認定医
検診マンモグラフィ読影認定医
日本消化器外科学会認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本医療マネジメント学会評議員



副院長・手術部長
梶原 啓司
(かじはら けいじ)

徳島大学 昭和55年卒
医学博士
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
消化器がん外科治療認定医
日本消化管学会胃腸科認定医



部長
重政 有
(しげまさ ゆう)

防衛医科大学 平成2年卒
医学博士
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本肝胆膵外科学会高度技術指導医・評議員
消化器がん外科治療認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



部長
佐々木 伸文
(ささきのぶふみ)

宮崎医科大学 昭和62年卒
医学博士
日本外科学会専門医
日本胸部外科学会認定医
日本消化器外科学会認定医
日本乳癌学会認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



部長
羽田野 和彦
(はたの かずひこ)
2013年4月より非常勤

長崎大学 昭和62年卒
医学博士
日本外科学会認定医・専門医
日本消化器外科認定医
日本肝胆膵外科学会評議員



副部長
草場 隆史
(くさば たかふみ)

長崎大学 平成9年卒
医学博士
日本外科学会認定医・専門医



医員
武岡 陽介
(たけおか ようすけ)
2013年3月退職

長崎大学 平成19年卒



医員
橋本 泰匡
(はしもと やすまさ)
2013年4月就勤

久留米大学 平成19年卒



医員
小山 正三朗
(おやま しょうさぶろう)
2013年4月就勤

長崎大学 平成22年卒



名誉顧問
國崎 忠臣
(くにざき ただおみ)

長崎大学 昭和41年卒
医学博士
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会指導医
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本ハイパーサーミア学会指導医
日本緩和医療学会暫定指導医



非常勤
菅村 洋治
(すがむら ようじ)

新潟大学 昭和42年卒
日本外科学会認定医
日本消化器外科学会認定医

診療内容

現在9名のスタッフで、あらゆる分野の専門医を取得し、認定施設や若い臨床医の研修・育成の場としての基準を満たしています。

診療面では、専門医による高度の医療を提供するため、肝胆膵外科、消化器・一般外科、乳腺・内分泌外科、呼吸器外科の4つのユニットに分け、それぞれ中心となる担当医を決めて、高度で安全な医療を目指しています。

治療対象の多くはがんなどの悪性疾患で、早期の症例に対してはQOLを重視した機能温存・縮小手術を、進行がんには手術に化学療法、温熱療法、放射線療法などを組み合わせた集学的治療を行っています。進行がんに対してはdown stagingによる予後の改善を目的とした術前化学療法(NAC)を行う症例が増加しています。

近年、低侵襲手術に重点が置かれるようになり、内視鏡手術や鏡視下手術が増加の傾向にあります。当科における鏡視下手術は1991年という早期に導入し、現在は胆石症などの良性疾患に対しては積極的に腹腔鏡下手術を行い、大腸がんに対しては症例を選択しながら、腹腔鏡下ないし腹腔鏡補助下手術を行っています。胸腔鏡下手術は、自然気胸、肺がんや縦隔腫瘍な

どに対して年間約40例を行っています。自然気胸の患者さんに対しては術後再発率0%を目標に治療を行っており、それに近い実績をあげています。

年々増加する乳がんに対しては、整容性を重視した乳房温存手術を目指しています。また全摘が必要な症例においては、症例を選んで一次的乳房再建術を行っています。

専門外来として、乳腺外来、ストーマ外来、禁煙外来を午後の時間帯に開設して、患者さんのニーズにこたえています。

研究面では、赤外線観察カメラシステム(Photodynamic Eye, PDE)を導入し、乳がん・胃がん・大腸がんを中心にICGの蛍光特性を利用したnavigation surgeryを開始しています。また全国学会をはじめ各種学会において、研究報告や症例報告を別記のように発表しました。(P.101参照)

毎週月曜日に病理・放射線科と合同で抄読会を行い、毎週月・木曜日に術前検討会を、毎週木曜日に消化器内科医を交えて術後検討会を行っています。また毎月1回手術標本の病理検討会を病理医指導の下で行っています。

診療実績

当院は救急告示病院で、佐世保市の二次輪番救急指定病院でもあり、緊急患者に対しては24時間対応

で行っています。2012年度は1,877台の救急車を収容し、71例の緊急手術を施行しました。

■主な診療実績

—手術症例数—

手術総数 482 (全身麻酔 339、腰椎麻酔 83、局所麻酔 60)					
(1) 乳腺腫瘍 ・乳がん ・その他(葉状腫瘍等)	83例 77例 6例	(6) 胃十二指腸潰瘍(穿孔)	8例	(11) 胆石症 ・内 腹腔鏡下	36例 29例
(2) 甲状腺腫瘍 ・甲状腺がん ・その他	8例 4例 4例	(7) 小腸疾患 ・イレウス ・腫瘍	15例 14例 1例	・内 総胆管切開	1例
(3) 呼吸器 (内 胸腔鏡下手術 38例)	43例	(8) 大腸腫瘍 ・結腸がん 内 腹腔鏡下	54例 37例 2例	(12) 胆嚢腫瘍 ・内 腹腔鏡下	8例 5例
①肺がん	21例	・直腸がん 内 腹腔鏡下	17例	(13) 胆管腫瘍	7例
②良性肺腫瘍	3例	(9) 大腸良性腫瘍(穿孔)	1例	(14) 肝腫瘍(肝切除)	4例
③縦隔腫瘍	4例	(10) ヘルニア	5例	・原発性	2例
④気胸	10例	・鼠径	61例	・転移性	2例
⑤その他	5例	・大腿	51例	(15) 膵腫瘍 ・内 膵頭十二指腸切除	3例 2例
(4) 食道がん	2例	・閉鎖孔	2例		
(5) 胃腫瘍 ・内 胃がん	34例 31例	・腹壁	3例		
		・臍	4例 1例		
(内)緊急手術 71 (全身麻酔 50、腰椎麻酔 19、局所麻酔 2)					
・急性虫垂炎	22例	・上部消化管穿孔	7例	・下部消化管穿	4例
・腸閉塞	9例	・大腸がん	5例	・胆嚢結石症	2例
・ヘルニア嵌頓	8例	・気胸	5例	・その他	9例



認定施設

- ・日本外科学会専門医制度修練施設
- ・日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設
- ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- ・日本胸部外科学会専門医制度関連施設
- ・日本ハイパーサーミア学会認定施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本大腸肛門病学会専門医修練施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本乳癌学会関連施設

Dept. of neurosurgery

脳神経外科

脳血管障害や頭部外傷に最先端の診断・治療を実施しています。

■診療担当医 ※2013年3月末日現在



診療部長
阪元 政三郎
(さかもと せいざぶろう)

福岡大学 昭和60年卒 医学博士
日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、長崎クモ膜下出血研究会世話人、長崎県北脳卒中研究会世話人、長崎県北神経懇話会世話人、福岡脳卒中連携セミナー世話人、福岡脳卒中救命セミナー世話人、福岡脳脊髄治療懇話会世話人、福岡脳神経先端治療研究会世話人、福岡大学臨床教授



部長
吉野 慎一郎
(よしの しんいちろう)

2013年3月退職

福岡大学 平成5年卒
医学博士
日本脳神経外科学会専門医・指導医
JPTECインストラクター



医長
竹本 光一郎
(たけもと こういちろう)

2013年4月就勤

福岡大学 平成15年卒
日本脳神経外科学会認定医・専門医
日本脳神経血管内治療認定医



医員
河井 伸一
(かわい しんいち)

福岡大学 平成21年卒



非常勤
衛藤 達
(えとう とおる)

福岡大学 平成9年卒
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医

診療内容

脳や脊髄および末梢の神経にいたるまで、あらゆる神経系の疾患をもつ患者さんを対象に、専門性の高い診断および手術治療ならびに血管内治療を行っています。診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈脳血管障害〉くも膜下出血(脳動脈瘤破裂)、未破裂脳動脈瘤、脳出血、脳動静脈奇形、脳梗塞、モヤモヤ病、頸動脈狭窄症など

〈脳腫瘍〉神経膠腫、髄膜腫、聴神経腫瘍、転移性脳腫瘍、下垂体腫瘍など

〈頭頸部外科疾患〉頭部外傷、顔面外傷など

〈脊椎・脊髄疾患〉変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、脊髄腫瘍、脊髄動脈奇形など

〈機能的疾患〉顔面痙攣、三叉神経痛など

診療実績

1995年大和町へ移転時より脳神経外科が新設され、特に救急での脳血管障害、外傷、さらに脳腫瘍・脊椎疾患等を治療しています。2009年3月には県北部の地域脳卒中センターに認定され、くも膜下出血、脳出血、脳梗塞等の脳卒中患者を24時間体制で受け入れ、CT・MRI・超音波検査を即時に行うことで、早期診断・治療を開始できております。脳梗塞患者が増加し、超急性期血栓溶解療法(t-PA)適応患者の搬入も増加傾向にあります。

リハビリはPT・OT・STが揃っており、365日休みなしの体制でリハビリを行い、更にロボットスーツHALを用いてリハビリも開始しております。また、コメディカルの協力もあり(MRI2台、超音波検査による心臓、頸動脈評価)、また脳卒中連携パスを用いて急性期から回復期への患者さんの管理を行うことで連携がスムーズとなり、地域に信頼される脳卒中センターが構築されています。

2009年に手術顕微鏡(Zeiss社OPMI Pentrero)も新しくなり、機能性が向上し、術中蛍光血管造影が

可能となり、脳動脈瘤、頸動脈内膜剥離術、バイパス術等で、より安全確実な治療が可能となりました。また、2011年に神経内視鏡（軟性鏡:オリンパス社、硬性鏡:STORT社）を導入し、低侵襲治療として、脳出血、硬膜下血腫、下垂体、動脈瘤治療等に使用しています。2012年12月より3.0T MRIが導入され、2台のMRIが稼働し、急患対応ならびに画像診断の向上が図れています。

また16ch神経生理モニターを購入し、術中モニタリングやICUでの脳波モニタリングで、より完全な治療が可

能となり、2013年4月から血管内治療専門医による動脈瘤塞栓術、頸動脈ステント留置術、脳梗塞に対する再開通療法が常時可能となりました。

福岡大学脳外科との協力のもと、脳神経外科疾患の全般にわたる治療が可能となり、今後はさらなる脳卒中治療の充実を図るため、院内での教育、脳卒中リハビリテーション認定看護師による患者・家族への指導、地域への啓蒙活動を行い、地域医療に貢献していきたいと思っています。

■主な診療実績

(件)

手術名	2010年 1月～12月	2011年 1月～12月	2012年 1月～12月
開頭クリッピング	29	20	14
動脈瘤コイルリング	1	2	5
脳出血開頭血腫除去	11	8	17
脳動静脈奇形摘出	1	1	0
頸動脈内膜剥離術	8	9	5
頸動脈ステント留置術	1	1	3
STA-MCAバイパス	0	3	3
脳腫瘍摘出	6	9	14
急性硬膜外血腫	5	9	3
急性硬膜下血腫	9	4	9
慢性硬膜下血腫	30	18	36
V-Pシャント	6	4	9
鎖骨下動脈ステント留置	1	1	1
頭蓋形成術	2	5	5
脳室ドレナージ	6	3	5
外減圧	1	4	1
頸椎前方固定	0	0	0
腫瘍除去	0	3	1
神経血管減圧術	1	0	0
塞栓術(腫瘍・AVM・dAVF)	0	5	2
その他	13	8	10
計	131	117	143

Dept. of Cardiovascular Surgery

心臓血管外科

人工心臓使用手術症例が500例に達し、最新機器を導入しました。

診療担当医 ※2013年3月末日現在



副院長・診療部長・
救急部長
柴田 隆一郎
(しばた りゅういちろう)

長崎大学 昭和54年卒
医学博士
日本外科学会外科専門医、日本救急医学会専門医
日本胸部外科学会認定医、日本胸部外科学会正会員
日本胸部外科学会九州地方会評議員
長崎大学心臓血管外科非常勤講師
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医



副部長
谷口 真一郎
(たにくち しんいちろう)

長崎大学 平成11年卒
医学博士
日本外科学会専門医
三学会構成心臓血管外科専門医
日本脈管学会認定脈管専門医
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医
ICD(インフェクションコントロールドクター)



医長
中路 俊
(なかじ しゅん)

長崎大学 平成14年卒
日本外科学会専門医
心臓リハビリテーション指導士
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医

診療内容

常時24時間緊急に対応できる体制を整え、診療を行っています。また、循環器内科・放射線科の医師と綿密に連絡を取り合い、患者さんに最適な医療を提案しています。私たちは心臓疾患・大血管疾患・末梢血管疾患の外科治療を主に診察しています。

①心臓疾患

心臓の病気には数多くの種類がありますが、大きくは生まれつき心臓に異常がある先天性疾患と、生まれた後に病気が生じる後天性疾患に分かれます。例えば先天性疾患には、心臓の壁に穴が開いている心房中隔欠損症や心室中隔欠損症などがあります。後天性心疾患には心臓を栄養する血管が狭くなったりつまったりする狭心症や心筋梗塞、心臓を仕切る弁膜(大動脈弁・僧帽弁・三尖弁・肺動脈弁)に異常が生じる弁膜症などがあり、それらの病気に対し冠動脈バイパス術や弁置換術・弁形成術などの外科治療を行っています。特に最近では高齢者の方々の手術が増加しており、手術侵襲を少なくするために、人工心臓を使用しない心拍動下冠動脈バイパス手術を積極的に行っています。

②大血管疾患

大血管の病気は血管壁に亀裂が入る大動脈解離と、血管が次第に拡張してくる大動脈瘤などに大きく分かれます。特に、大動脈解離は診療に急を要する場合があります。そのような急を要する病気に対しても、私たちは常時24時間緊急に対応できる体制を整え診療を行っています。大動脈瘤に関しては動脈瘤を切除して人工血管に取り換える手術が一般的ですが、私たちの施設ではステントグラフト内挿術を行うことが可能であり、多くの治療法の提案ができ、その中から最適と思われる治療を受けることが可能です。

〈ステントグラフト治療とは?〉

ステントグラフト治療とはカテーテルで血管内に人工血管を留置する方法で、利点として一般の手術より体への負担は軽減され、入院期間も短縮できます。しかし、動脈瘤の状態で適応が制限されることや治療効果などの問題点があります。個々の症例ごとによく検討する必要がある治療法ですが、今後さらに増加していくと考えられます。

③末梢血管疾患

動脈疾患と静脈疾患に分かれます。足の動脈が狭くなったりつまったりする閉塞性動脈硬化症については、下肢バイパス手術や血管の中から風船で治療する血管内治療を行っております。静脈疾患の外科治療では、

静脈瘤に対して血管エコーを用いて診療し、手術の際にも血管エコーで静脈瘤の様子をみながら、適切で最小限の皮膚切開を行う方法で、ストリッピング手術や逆流している静脈の内側からレーザーで静脈の壁を焼く「血管内レーザー焼灼術」を行っております。

診療実績

手術名	心臓血管外科の実績(手術件数)			
	(件)			
	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
開心術(OPCAB)	39(1)	41(7)	38(10)	31(13)
胸部大血管(ステントグラフト)	5	6	6(1)	10(2)
腹部大血管(ステントグラフト)	8(2)	14(3)	13(2)	21(11)
末梢動脈	23	29	18	21
末梢静脈	47	59	80	73
内シャント造設術	4	31	28	36

認定施設

- ・心臓血管外科学会認定修練施設
- ・胸部・腹部ステントグラフト実施施設
- ・下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施施設

Dept.of pediatrics

小児科

子どもの心と体の健康維持に誠実に取り組みます。

■診療担当医 ※2013年3月末日現在



診療部長
山田 克彦
(やまだ かつひこ)

大分大学 平成2年卒
日本小児科学会認定小児科専門医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本小児循環器学会会員
日本川崎病学会会員
日本小児アレルギー学会会員



部長
犬塚 幹
(いぬづか みき)

大分大学 平成6年卒
日本小児科学会認定小児科専門医
日本小児神経学会認定小児神経専門医
日本てんかん学会認定てんかん専門医
日本外来小児科学会会員

診療内容

地域の子どもの心と体のすこやかな成長を支援し、保護者への懇切でいねいな説明を心がけています。

新生児を除く乳児から思春期にかけての小児期発症の内科的疾患を、常勤医2名体制で、地域の先生方からのご紹介患者様を中心に診療しています。また、

医師の専門性を生かして、小児循環器疾患、小児神経疾患の専門医療を行っています。

「子どもの現代病」とも言われる、心身症や発達障害、食物アレルギー、生活習慣病(肥満)にも正面から取り組んでいます。

診療実績

■入院

区分	件数
入院延患者数	826
新入院患者数	147

■入院患者の内訳

ICD	分類	件数	主な疾患	件数
A-B	感染症および寄生虫症	25	急性胃腸炎	15
D	血液および造血器、免疫機構の障害	2	血管性紫斑病	2
E	内分泌、栄養および代謝疾患	13	低身長	6
F	神経および行動の障害	1		
G	神経系の疾患	4	てんかん	2
H	眼と付属器、耳および乳様突起の疾患	4	中耳炎	3
I	循環器系の疾患	3		
J	呼吸器系の疾患	74	肺炎	48
K	消化器系の疾患	2		
L	皮膚および皮下組織の疾患	1		
M	筋骨格系および結合組織の疾患	1		
N	尿路性器系の疾患	5	ネフローゼ	3
S-T	損傷、中毒およびその他の外因	12	食物アレルギー	10
合計		147		

■外来

区 分	件 数
延外来患者数	3,675
初診（新規 ID 取得）患者数	322

■専門的医療

区 分	件 数
脳波検査	141
心身症カウンセリング	129
心エコー検査	123
経口負荷試験（食物アレルギー）	9
トレッドミル試験	7
成長ホルモン分泌刺激試験	6
経口糖負荷試験（OGTT）	5

Dept. of urology

泌尿器科

基幹病院として「前立腺がん撲滅キャンペーン」に積極的に参加しています。

■診療担当医 ※2013年3月末日現在



副院長・診療部長

南 祐三

(みなみ ゆうぞう)

東京医科大学 昭和53年卒
日本泌尿器科学会認定専門医・指導医



副部長

徳永 亨介

(とくなが こうすけ)

金沢医科大学 平成8年卒
日本泌尿器科学会認定専門医

診療内容

男性特有の病気である前立腺疾患をはじめとして、排尿に関係するすべての臓器(腎臓・尿管・膀胱・尿道)の疾患の患者さん(女性・小児を含む)を対象に、診断、治療を行っています。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈前立腺疾患〉前立腺肥大症、前立腺癌、前立腺炎など

〈尿路結石症〉腎臓結石、尿管結石、膀胱結石、尿道結石など

〈尿路感染症〉腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎など

〈その他〉脳・脊髄障害による神経因性膀胱、尿失禁、腎臓がん、膀胱がん、アルドステロン症・クッシング症候群などの副腎疾患、停留精巣など

日本人の前立腺癌は近年急増しており、この10年間で死亡者数がおよそ2倍になっています。高齢化が進む中において、患者数はさらに増加することが懸念されています。当科は、国が5ヵ年計画で取り組んでいる「前立腺がん撲滅キャンペーン」に佐世保の基幹病院として積極的に参加しています。

診療実績

全く自分自身の排尿状況と重なることに気づく今日この頃であります。むしろ患者さんの立場での診療ができ有り難く思っております。

当院も地域医療支援病院の資格が与えられ、当科がいかに関与できるかという診療姿勢が問われております。そうとは言え、診療能力(マンパワー)が資格取得後に大幅にアップしたわけではありません。資格取得前と同じマンパワーで、従来よりもさらに地域に貢献できる診療体制を築くためにはいかにあるべきかを考えます。

それを達成できるかどうかは、一つはいかに地域の医療機関と連携できるかが重要な課題であろうことは推察

できます。病診連携は各施設でそれぞれに努力されており、少しずつではありますが結果が出てきている状況です。ただ、病病連携となると、まだまだ各基幹病院間に長年の壁があり、連携がうまくとれず患者さんにご迷惑をおかけするようなことを経験されるのが現状でありましょう。

2012年度は各基幹病院の得意分野や施設基準を踏まえての病病連携を行い、当科が特化できる分野を他の医療機関に認知していただいて、その事を基礎においた地域医療貢献を念頭において活動してきたつもりですが、まだまだ認知度が低く2013年度も理念達成のための努力を継続する覚悟であります。

■主な診療実績

経尿道の膀胱腫瘍切除術	28例	腎摘出術	4例
経尿道の前立腺切除術	9例	前立腺生検査	95例
前立腺がん全摘出術	5例		

認定施設

泌尿器科専門医教育施設

Dept.of Dermatology

皮膚科

皮膚科は月曜日から金曜日まで、毎日午前9:00～12:00まで一般外来診療を行っています。
午後は検査・外来小手術・院内外来診療・入院患者診療などを行っています。

■診療担当医 ※2013年3月末日現在



副部長

山口 宣久

(やまぐち のりひさ)

福岡大学 平成8年卒

診療内容

皮膚科領域全般にわたり診療していますが、主な診療疾患は以下のとおりです。

- ・ 虫さされ、接触性皮膚炎(かぶれ)、光線過敏症などの湿疹・皮膚炎疾患
- ・ 皮膚掻痒症、乾燥肌、アレルギー性疾患(蕁麻疹、アトピー性皮膚炎など)
- ・ 顔面の疾患(にきび、吹き出物、ほくろなど)
- ・ 口の中の異常など
- ・ 手足の疾患(汗疱、掌蹠膿疱症、多汗症)
- ・ 表在性真菌症(水虫、ぜにたむし、いんきんたむし、しらくもなど)
- ・ たこ(胼胝)、ウオノメ(鶏眼)
- ・ 円形脱毛症
- ・ 帯状疱疹やイボなどのウイルス性疾患
- ・ 尋常性乾癬など炎症性角化症や紅皮症
- ・ 水疱症(尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡)
- ・ 薬疹、中毒疹など
- ・ 糖尿病・膠原病などの内科的疾患に伴う皮膚症状
- ・ 爪疾患、爪の異常:陥入爪、彎曲爪(巻き爪)
- ・ 熱傷、化学熱傷、凍瘡などの物理・科学的障害
- ・ 褥創などの壊疽
- ・ 皮膚腫瘍(良性・悪性)
- ・ 小児皮膚疾患(とびひ、いぼ、みずいぼ、オムツかぶれ、アトピー性皮膚炎など)

■主な検査・治療

《検査》

- ・ 皮膚組織試験採取術(皮膚生検):疾患診断、病変の深達度を診断するために、病変を含めて皮膚を一部切除します。局所麻酔下を実施しますので、過去に抜歯などの際、局所麻酔で気分が悪くなった方は予めその旨をお教えてください。
- ・ 貼付試験:かぶれや薬疹の原因を検索する検査で、皮疹のない背部に薬剤を染み込ませた絆創膏を貼り、48時間後に除去して紅斑、丘疹などの有無を観察し、さらに72時間後、1週間後にも観察します。
- ・ ダーモスコピー:黒色皮疹を呈する患者さんの場合、母斑や悪性黒色腫、その他の皮疹などを、この器具を用いて鑑別する方法です。

《治療》

- ・冷凍凝固療法：ウイルス性、老人性疣贅に液体窒素を圧抵し、壊死脱落させる方法です。
- ・外用PUVA、PUVA-Bath療法：乾癬、掌蹠膿疱症、白斑、円形脱毛症、悪性リンパ腫の皮膚浸潤などに用いる治療法で、紫外線を距離と時間を決めて、数日間隔で照射する方法です。
- ・局所免疫療法：円形脱毛症の難治例に用いる治療法で、人工的に接触皮膚炎をおこし、発毛を促す方法です。
- ・腫瘍切除：良性、悪性を問わず腫瘍部を切除します。場合によっては皮膚形成術（皮弁または植皮となる場合があります）を施行する場合があります。
- ・巻き爪の治療：弾性ワイヤー治療、陥入爪根治術（フェノール法）
弾性ワイヤー治療は外来治療で可能ですが、施術には爪の長さなど条件があります。
陥入爪根治術（フェノール法）は短期入院していただく場合があります。
- ・男性型脱毛症：当院には飲み薬のプロペシアがあります。（保険適用外）

診療実績**■患者数件数**

- ・一般外来（入院中外来を除く）…………… 5,478人
- ・入院…………… 57人

■検査件数

- ・皮膚組織試験採取術（皮膚生検）…………… 44例

■外来手術件数

- ・皮膚、皮下腫瘍切除術…………… 20例
- ・陥入爪根治術…………… 5例
- ・皮膚悪性腫瘍切除術…………… 5例

■入院手術件数

- ・皮膚、皮下腫瘍切除術…………… 2例

Dept. of Radiology

放射線科

胸腹部の悪性腫瘍治療にハイパーサーミアを積極的に使用しています。

診療担当医 ※2013年3月末日現在



理事・副院長
地域医療連携センター長
医療情報本部長

平尾 幸一
(ひらお こういち)

長崎大学 昭和56年卒 医学博士
日本医学放射線学会診断専門医
日本ハイパーサーミア学会認定医
検診マンモグラフィ読影認定医
九州山口ハイパーサーミア研究会世話人



診療部長

堀上 謙作
(ほりかみ けんさく)

長崎大学 平成5年卒
医学博士
日本医学放射線学会診断専門医
検診マンモグラフィ読影認定医



副部長

末吉 真
(すえよし まこと)

長崎大学 平成8年卒
日本医学放射線学会診断専門医

診療内容

①画像診断業務

- 1) CT、MRI、核医学、血管造影（心臓カテーテル検査、脳血管造影以外）による検査と診断は全て放射線科が行っています。
- 2) CT、MRI検査は、地域医療機関に積極的に利用していただいています。（1429件/年）
- 3) 当院の特徴の一つは、胸部の単純X線写真の読影を行っていることであり、主治医とのダブルチェックの役割を果たしています。
- 4) 検診マンモグラフィ読影は、マンモグラフィ読影認定医2名（放射線科及び外科）がダブルチェックを行っています。
- 5) 検診の肺CT・脳MRIは放射線科と健康増進センター（健診医）がダブルチェックを行っています。
- 6) CT、MRI、核医学の報告書は約85%以上が検査後24時間以内に作成されています。

②IVR

- 1) 血管系IVRは肝腫瘍に対する動脈化学塞栓術が最も多い割合を占めています。
- 2) 内視鏡的止血が困難な症例に対して消化管出血の動脈塞栓術を実施しています。
- 3) 非血管系のIVRは胆道系（ドレナージや胆道内瘻化）、膿瘍ドレナージが多くを占めています。
- 4) 胸腹部大動脈ステント留置術を心臓血管外科と共同で行っています。

③放射線治療・ハイパーサーミア（温熱療法）

- 1) 毎週水曜日に、長崎大学の日本医学放射線学会放射線治療専門医による放射線治療計画を行っています。
- 2) 地域医療機関より、乳房温存術後や子宮がんの放射線治療依頼を受けています。
- 3) 他院で化学療法を受けている方でも当院でハイパーサーミア（温熱療法）を受けることが可能です。

診療実績

画像診断

胸部単純X線写真読影	9,126件
血管造影検査	200件
CT	11,914件
MRI	5,064件
マンモグラフィ	2,290件
核医学検査	736件

IVR

血管系IVR	
肝腫瘍化学塞栓術	82件
消化管出血の塞栓術	2件
透析シャントの血管拡張術	14件
大動脈ステント内挿術	12件
その他	5件

非血管系IVR

胆道ドレナージ・内瘻化	21件
膿瘍ドレナージ	7件
生検(超音波・CTガイド下)	2件
マーキング(CTガイド下)	2件

放射線治療

乳房	42件
肺	14件
膀胱・前立腺	20件
肝臓・胆道・膵臓	17件
食道	5件
その他	37件

■ハイパーサーミア

32件

外来診療体制**画像診断業務・血管造影検査・IVR**

月～金曜日 8:30～17:30

地域医療機関からの検査依頼も上記時間に実施しています。

なお救急等の緊急検査依頼は、365日24時間対応しています。

放射線治療

毎週水曜日に、長崎大学の日本医学放射線学会放射線治療専門医による放射線治療計画を行っています。なお、水曜日が祝日の場合には、曜日を変更して放射線治療計画を立てて行います。

ハイパーサーミア

日本ハイパーサーミア学会認定医、臨床工学技士、看護師が共同で治療を実施しています。

認定施設

- ・日本ハイパーサーミア学会認定施設
- ・日本医学放射線学会専門医修練機関

Dept. of Otolaryngology

耳鼻咽喉科

中耳炎や難聴、鼻炎・副鼻腔炎などの専門的診断・治療を実施しています。

■診療担当医 ※2013年3月末日現在



副部長

大里 康雄

(おおさと やすお)

長崎大学 平成9年卒
日本耳鼻咽喉科学会専門医

診療内容

2008年4月1日より、それまでの常勤医2名体制から、常勤医1名+非常勤1名(月・金の外来のみ)へ変更となりました。それに伴い、頭頸部腫瘍手術などは当科では対応できなくなりましたが、それ以外の領域につきましては、従来と同様のサービスを提供できるよう努力しております。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈耳疾患〉

- ・めまい、難聴などの精査や治療
- ・滲出性中耳炎の治療や、鼓膜チューブ留置術
- ・慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎などに対する精査や、鼓膜形成手術・鼓室形成手術
- ・急性中耳炎、耳内異物などに対する処置や治療

〈鼻疾患〉

- ・アレルギー性鼻炎に対する精査や、薬物治療・外科的治療など
- ・慢性副鼻腔炎、副鼻腔囊腫、鼻中隔彎曲症、鼻骨骨折などに対する手術

- ・急性鼻炎、鼻出血、嗅覚障害、鼻腔内異物などに対する処置や治療

〈咽喉頭・頸部疾患〉

- ・咽喉頭炎、扁桃炎、唾液腺炎、頸部リンパ節炎など急性炎症に対する治療
- ・慢性扁桃炎、扁桃病巣感染症、閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出手術
- ・小児の滲出性中耳炎に対するアデノイド切除術、口蓋扁桃摘出手術
- ・咽頭異物に対する内視鏡下異物摘出術
- ・咽喉頭領域の悪性腫瘍に対する組織検査や放射線治療
- ・嚥下障害の症例に対する嚥下内視鏡検査や、言語聴覚士による嚥下リハビリテーション

診療実績

嚥下機能評価(嚥下内視鏡検査) 40例
 両側口蓋扁桃摘出術 15例
 鼓室形成術 7例
 気管切開術 6例
 内視鏡下鼻内副鼻腔手術 5例
 鼓膜チューブ留置術(全身麻酔下) 2例

鼓膜形成手術 2例
 外耳道形成手術 2例
 声帯ポリープ切除術 1例
 頭頸部悪性腫瘍に対する放射線治療 0例
 口腔悪性腫瘍摘出術 0例

Dept. of anesthesiology

麻酔科

術中の麻酔管理とICUの管理・運営を行っています。

■診療担当医 ※2013年3月末日現在

診療部長

堤 雅俊

(つつみ まさとし)

長崎大学 昭和62年卒
麻酔標榜医

副部長

福島 浩

(ふくしま ひろし)

長崎大学 平成5年卒

診療内容

術中の麻酔管理を主な仕事としており、そのほとんどは全身麻酔症例です。また、ICUにおいて課長・主任と

ともに管理・運営を行っています。

診療実績

2012年の手術症例は984例で、全身麻酔症例は565例(うち緊急手術は97例)・脊椎麻酔210例でした。

2012年の全身麻酔症例の詳細は、各科別では外科364例(緊急47例)・脳神経外科85例(緊急39例)・心臓血管外科68例(緊急11例)・泌尿器科14例(緊急0例)・耳鼻咽喉科34例(緊急0例)でした。

2012年の手術時間では、最長18時間22分の手術(脳神経外科で後頭蓋窩腫瘍)をはじめ、8時間を超える症例が15例でした。年齢別では、最高齢95歳で80歳以上の高齢者が92例でした。

麻酔法はセボフルレン・レミフェンタニルによるバランス

麻酔とプロポフォール・レミフェンタニルによる全静脈麻酔と半々です。また、術後の疼痛管理を考え、積極的に硬膜外麻酔を併用しています。

ICUは2012年6月より8床から10床へ増床し、重症者と術後(全身麻酔後)を受け入れています。

2012年は889名の入室があり、稼働率は76.2%で4月が97%と最も高く、6月が59%と最も低い稼働でした。内訳は外科359名・脳神経外科248名・心臓血管外科77名・泌尿器科13名・循環器内科110名・一般内科60名・消化器内科22名でした。

Dept. of Pathology

病理部

他診療科医と連携して病理診断やカンファレンスを実施しています。

診療担当医 ※2013年3月末日現在診療部長
臨床検査部長**米満 伸久**

(よねみつ のぶひさ)

長崎大学 昭和56年卒 医学博士
日本病理学会病理専門医・研修指導医、日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医、日本臨床検査医学会管理医、死体解剖資格、ICD(インフェクション・コントロール・ドクター)、佐賀大学医学部臨床教授、佐賀大学医学部非常勤講師、佐世保市医師会看護学校非常勤講師、Pathology International編集委員

非常勤

戸田 修二

(とだ しゅうじ)

佐賀医科大学 昭和59年卒 医学博士
日本病理学会病理専門医・研修指導医
日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医
死体解剖資格

非常勤

山崎 文朗

(やまさき ふみお)

佐賀医科大学 平成3年卒 医学博士
日本病理学会病理専門医・研修指導医
日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医
死体解剖資格

非常勤

内橋 和芳

(うちはし かずよし)

佐賀医科大学 平成11年卒 医学博士
日本病理学会病理専門医・研修指導医
日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医
日本整形外科学会専門医
死体解剖資格

非常勤

西島 亜紀

(にしじま あき)

佐賀医科大学 平成14年卒
日本内科学会認定内科医
日本肝臓学会肝臓専門医

非常勤

山本 美保子

(やまもと みほこ)

佐賀医科大学 平成19年卒

診療内容

日々の細胞診、生検診断、手術摘出臓器の病理診断、術中迅速診断、病理解剖および臨床病理カンファレンスを主な業務としています。

細胞診では、婦人科細胞診や尿細胞診はLiquid base cytology (LBC) を用いてきましたが、他の胸腹水、甲状腺など、他の領域でもLBC法を併用することにより、細胞を効率的に収集し診断するとともに、免疫組織化学や分子生物学への試料の応用を開始しました。穿刺細胞診もより良い標本を作成するため、細胞検査士をはじめとする病理部のスタッフが穿刺現場で、臨床医が採取した検体の処理に当たっています。

生検診断や摘出臓器の診断では、H.E.染色や特殊染色に加え免疫組織化学がルーチン化されています。自動免疫染色装置を用いて作業の効率化を図ると

ともに、陽性コントロール、陰性コントロールを常に併用することにより、精度の高い染色を行っています。乳腺では従来からホルモンレセプターやHER2の染色のため、免疫組織化学が行われています。HER2染色では組織の固定状態が重要ですので、摘出後なるべく早く緩衝ホルマリンを摘出臓器に注入固定するようにしています。また、胃癌においても分子標的治療の開始に伴いHER2染色を行うようになりました。

消化器科や外科系の医師とは、摘出臓器の切り出し時に立ち会ってもらい実際の臓器の所見を術前の画像診断などと付き合わせて切り出しています。術前カンファレンスへの参加とともに、臨床医がそれぞれの症例で何を問題としているかをお互いに確認しつつ、臓器の検索を行うことが可能です。生検診断、摘出臓器の診断

ともに、可能な限り早急に結果を臨床医に報告しています。消化器系の摘出標本については、毎週術前カンファレンス後に、術後の臨床病理カンファレンスで症例を呈示しています。消化器系以外の外科提出標本については、毎月合同カンファレンスを開催し、興味のある症例についてより詳細に検討を加えています。必要があれば、これらのカンファレンス後の追加検討も行っています。カンサーボードにも同様に密に関与しています。また腎生検では蛍光抗体法を含め腎臓内科医と一緒に組織を鏡し、臨床データと照合しつつ診断のみならず治療方針も検討しています。

術中迅速診断では、乳腺のセンチネルリンパ節および温存術における断端の検索が著しく増加しています。

剖検はどこの施設でも年を追って減少していますが、当院でも剖検数が減少しています。剖検症例はほぼ全例実際の固定臓器を示しながら、組織所見も交えてCPCを行うことで解剖の結果を臨床へ還元しています。2012年度はCPCを10回開催しました。またご希望のあるご遺族には主治医からCPCをふまえた最終的な結果を報告させていただいています。

1例にかかる時間が長くなる傾向にありますが、クリオスタット1台と病理部の技士数からいたしかたないところで、また術中細胞診との併用も日常的に行い、より精度の高い術中診断を行えるようになりました。

学会や研究会の支援も病理部で力を入れており、病理に関連したスライドの作成依頼は例年30ないし40例程度あります。若い医師には消化器のカンファレンスなどでは内視鏡所見やESDなどの所見と照らし合わせつつ、病理所見も自ら発表していただいています。また病理部としての学会活動や研究会での発表の他、学会誌の編集委員としての査読業務、論文や教科書の執筆などの学術活動、大学や看護学校での講義などの活動も幅広く行いました。

佐賀大学病理学教室や長崎大学原研病理学教室とも密接な連携関係にあります。大学の教授以下いちスタッフにも病理診断に加わっていただき、ほぼ全症例をダブルチェック、あるいはトリプルチェックしています。また、大学の教室の協力により、一人病理医のフォローアップとともに、大学の若手の医師の人体病理学の卒後教育にも積極的に取り組んでいます。

診療実績

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
組織診断	2,688件	2,478件	1,992件	2,279件
細胞診断	4,440件	4,400件	4,544件	4,842件
解剖	14件	10件	10件	21件
剖検例CPC	8回	8回	6回	10回
臨床病理カンファレンス	79回	79回	75回	81回

Dept. of Diabetes Center

糖尿病センター

糖尿病患者の自己管理を専門チームが支援しています。

■診療担当医 ※2013年3月末日現在



センター長
松本 一成
(まつもと かずなり)

長崎大学 昭和62年卒 医学博士
長崎大学臨床教授
日本糖尿病学会専門医 指導医
日本内科学会認定内科医
臨床コーチング研究会認定コーチ
臨床コーチング研究会幹事



診療部長
尾崎 方子
(おざき まさこ)

2013年3月退職

大分医科大学 平成6年卒 医学博士
日本糖尿病学会専門医
日本内科学会認定内科医 指導医
日本医師会認定産業医



医長
森 良孝
(もり よしたか)

2013年5月就勤

長崎大学 平成12年卒
日本内科学会認定内科医
日本透析医学会専門医
日本腎臓学会腎臓専門医



医員
森 芙美
(もり ぶみ)

2013年4月就勤

長崎大学 平成17年卒
日本内科学会認定内科医



非常勤
藤島 圭一郎
(ふじしま けいいちろう)

藤田保健衛生大学 平成13年卒
日本糖尿病学会専門医、日本内科学会認定内科医
日本糖尿病学会研修指導医

診療内容

かかりつけ医から紹介された患者さんや、健康診断で糖尿病が疑われた患者さん(メタボリックシンドロームも含む)、あるいは糖尿病そのものや合併症がコントロールできていない患者さんなどを対象にしています。糖尿病の診断、食事療法・運動療法を実行するための支援、糖尿病薬やインスリンによる治療、合併症の管理など、糖尿病専門機関でしかできないような診療を行っています。一方でかかりつけ医と地域連携システムを構築し、地域連携パス「佐世保ブルーサークル」を運用しています。通常の治療はかかりつけ医で行い、専門的な教育や検査は専門施設である当院で行うことになり、医療資

源を最大限に生かす有用な方法です。

糖尿病の理想的な治療は、できるだけ正常に近くなるように血糖値をコントロールして合併症を防止することです。そのためには、患者さん自身による「自己管理」が大切です。当院では、患者さんの自己管理を支援するために専門チームを結成し、「教育入院(2週間)」、「検査入院(1泊2日)」、「腎症教育入院(4泊5日)」、「持続血糖モニター入院(3泊4日)」、「栄養看護外来」の5つのコースを運営しています。なかでも教育入院の成績は大変良好であり、退院後多くの患者さんがHbA1c(NGSP値)7%未満を達成されています。

診療実績

糖尿病センターでは毎月およそ1,400名の糖尿病患者さんを専門外来にて診療し、年間およそ100名の糖尿病教育入院に携わっています。新患は年間およそ300例で、長崎県内では最も充実した糖尿病学会認

定教育施設です。常勤医は松本医師・尾崎医師の2名です。また非常勤の藤島医師とあわせて3名で診療しています。看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師など専門性の高いメディカルスタッフも大

いに活躍しており、大変すばらしいチーム医療が実践されています。例えば、看護師は糖尿病性壊疽を未然に予防する「フットケア」の実践を行っています。また、管理栄養士も毎日栄養指導を行っています。医師、看護師、管理栄養士による「透析予防指導」も開始しました。診療のみならず学術的な分野でも毎年、学会や論文など多くの糖尿病診療に関する重要な知見を継続して発表しています。その分野は多岐にわたっており、糖尿病療養指導、腎症、動脈硬化、コーチングなど幅広い発表内容になっています。

「共感的に患者さんの言葉を傾聴する」、「わかるまで繰り返し情報提供を続ける」、「どうなりたいのか具体的に質問する」、当たり前のことと思われがちですが、実際にできている施設は少ないと思います。患者さんの自主性を支援することをエンパワーメントといいますが、このことを実践するために、糖尿病の基礎知識や最新の情報を整理して患者さんに理解しやすい資料を作成しています。また、医療者と患者さんの双方向性のコミュニケーションを促進するためのコーチングにも磨きをかけています。

■糖尿病教室

- 月・尾崎／栄養士
- 火・栄養士 理学療法士
- 水・松本／栄養士
- 木・栄養士 看護師
- 金・藤島／栄養士 臨床検査技師

■主な診療実績

2012年度新患者数	339名
月平均受診者数	1,009名
平均HbA1c	6.9%

■クリニカルインディケーター(薬物療法患者対象)

		第1四半期 (4・5・6月)	第2四半期 (7・8・9月)	第3四半期 (10・11・12月)	第4四半期 (1・2・3月)	年 間
2012年度		35.29%	40.68%	35.14%	29.81%	35.26%
	HbA1c<6.9%	427	504	427	361	
	全体	1,210	1,239	1,215	1,211	
		56.12%	60.69%	55.23%	51.86%	56.00%
	HbA1c<7.4%	679	752	671	628	
	全体	1,210	1,239	1,215	1,211	
		84.21%	82.97%	81.56%	79.60%	82.09%
	HbA1c<8.4%	1,019	1,028	991	964	
	全体	1,210	1,239	1,215	1,211	
		95.29%	92.41%	93.33%	92.90%	93.48%
	HbA1c<9.4%	1,153	1,145	1,134	1,125	
	全体	1,210	1,239	1,215	1,211	

認定施設

日本糖尿病学会教育施設

Dept.of Arthritis and Lupus Center

リウマチ・膠原病センター

関連診療科と連携して全身的な診断・治療を実施しています。

診療担当医 ※2013年3月末日現在



理事・病院長
植木 幸孝
(うえき ゆきたか)

長崎大学 昭和56年卒 医学博士
長崎大学臨床教授
日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本リウマチ学会・専門医・指導医・評議員、日本透析医学会専門医・指導医、日本アフェリシス学会認定専門医、九州リウマチ学会評議員



センター長
寺田 馨
(てらだ かおる)

長崎大学 昭和60年卒
医学博士
長崎大学臨床教授
日本リウマチ学会専門医
日本内科学会認定内科医



副部長
岩永 希
(いわなが のぞみ)

2013年5月退職

長崎大学 平成12年卒 医学博士
日本内科学会認定内科医
日本リウマチ学会専門医



医長
荒牧 俊幸
(あらまき としゆき)

2013年4月就勤

長崎大学 平成13年卒
日本内科学会認定内科医、日本リウマチ学会専門医



医員
西野 文子
(にしの あやこ)

2013年3月退職

長崎大学 平成21年卒



医員
梅田 雅孝
(うめだ まさたか)

2013年4月就勤

長崎大学 平成22年卒



非常勤
一瀬 邦弘
(いちのせ くにひろ)

長崎大学 平成12年卒 医学博士
日本内科学会認定内科医、日本リウマチ学会専門医
日本腎臓学会専門医



非常勤
岩本 直樹
(いわもと なおき)

長崎大学 平成14年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医

診療内容

関節リウマチ、膠原病、および膠原病類縁疾患の患者さんを対象に、診断および内科的治療、さらにはよりよい治療法の開発に向けた研究活動を行っています。

診療している主な疾患は右記のとおりです。

〈リウマチ疾患〉関節リウマチ

〈膠原病〉全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎、血管炎症候群など

〈膠原病類縁疾患〉ベーチェット病、シェーグレン症候群、リウマチ性多発筋痛症など

診療実績

関節リウマチをはじめとする膠原病は、日本リウマチ学会・アメリカリウマチ学会・ヨーロッパリウマチ学会の分類基準により行うのが標準となっていますが、鑑別すべき疾患が多く注意深く鑑別することが必要で、最初に診断で

きなくとも、経過観察を継続することで診断に至ることがあります。

関節リウマチを始めとする膠原病は一般に経過が長く、増悪・寛解を繰り返すので、現時点だけでなく長期

的な視野に立って治療を考える必要があります。患者さん自身の意見を尊重する必要があります。すなわち、予後と治療法の選択、治療の費用、副作用の情報を適切に伝え、患者さん自身の意向を勘案しながら治療法を選択する必要があります。また、疾患あるいは治療薬に関係する合併症も多くみられます。従って、リウマチ・膠原病センターでは、以下の点を診療科の目標としています。

- ① 診断および治療の適用・開始を的確に行う。
- ② 治療効果の判定、経過観察を適切に行う。
- ③ 疾患あるいは治療薬に関係する合併症の出現に注意し、出現時は、速やかに適切に対処する。
- ④ スタッフ(看護師・理学療法士・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー・事務職など)と協力し、日常生活上の注意、物理・作業療法、社会福祉的な支援(特定疾患・身体障害者・介護保険などの申請など)を行う。

特に、関節リウマチは近年、画期的な治療である生物学的製剤の登場で治療法が大きく変わっています。しかし、基礎疾患のため使用できない場合、生物学的製剤を使用しても十分な効果が出ない場合、生物学的製剤の副作用のため使用継続が困難である場合、生物学的製剤が高額のため経済的に使用できない場合な

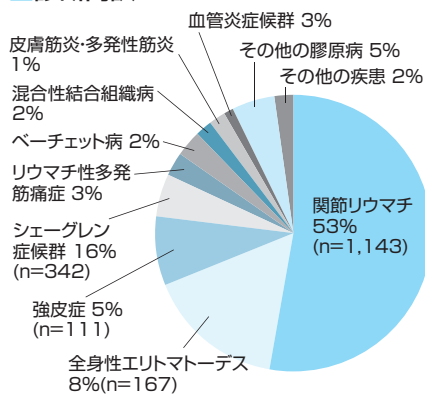
どがあり、本当の意味で画期的とはいえない状態です。従って、生物学的製剤およびそれ以外の治療法の適応方法・開発が期待されます。今後もリウマチ膠原病疾患を中心に、佐世保市・県北の医療に貢献していきたいと思えます。

■ 診断内訳

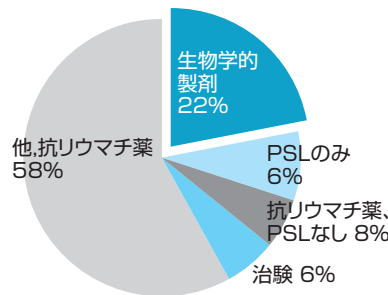
当リウマチ・膠原病センターは毎月およそ1800名のリウマチ・膠原病の患者さんを専門外来で診療しています。新患は年間約500名で、佐世保市、長崎県北部のみならず、島原など県南部からも紹介を受けています。最近、関節リウマチ(RA)の診断・治療が急速に進み、早期リウマチの患者さんの紹介が急増しています。さらに2003年から導入された生物学的製剤により、RAの治療は痛みを抑える時代から、その進行を抑える時代、そして進行を止め、場合によっては関節破壊を修復するような激動の時代に突入しています。

当院では、全RA患者さんの約22%に使用しています。遠方からたくさんの患者さんが当院を受診されているため、地域の先生方と県北リウマチネットワークを作り、リウマチの地域連携をすすめています。

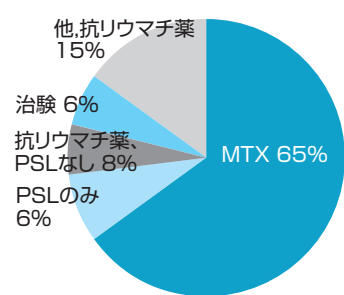
■ 診断内訳 2013年1月統計(n=1,855)



■ 生物学的製剤使用状況 (関節リウマチ患者=1,143人)



■ MTX使用状況 (関節リウマチ患者=1,143人)



認定施設

日本リウマチ学会認定教育施設

Dept. of artificial dialysis Center

人工透析センター

血液浄化療法を導入し、免疫性疾患の治療にも対応しています。

■診療担当医 ※2013年3月末日現在



理事・病院長
植木 幸孝
(うえき ゆきたか)

長崎大学 昭和56年卒 医学博士
長崎大学臨床教授
日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本リウマチ学会・専門医・指導医・評議員、日本透析医学会専門医・指導医、日本アフェリシス学会認定専門医、九州リウマチ学会評議員



診療部長
浪江 智
(なみえ さとる)

長崎大学 昭和62年卒
医学博士
日本透析医学会専門医



非常勤
林 和歌
(はやし わか)

長崎大学 平成8年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本腎臓学会腎臓専門医
日本透析医学会専門医

診療内容

腎臓疾患や自己免疫疾患などの患者さんを主な対象に、専門的な診断および血液透析や血漿交換など、血液浄化装置を用いて各種専門治療を行っています。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈腎臓疾患〉ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、腎性高血圧、糖尿病性腎症、膠原病に伴う腎障害、急性腎障害、慢性腎臓病など
〈自己免疫疾患〉関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、血管炎、潰瘍性大腸炎など

診療実績

常時80人以上の維持透析を行い、また、透析導入やあらゆる急性血液浄化療法にも対応しています。

2011年度に全国で維持透析導入された患者数は38,800人を超え、また維持透析患者数も304,500人を超えました。導入された患者さんの原疾患の第1位は糖尿病性腎症で44.2%ですが、当院は県内最大規模の糖尿病センターを有しており、糖尿病性腎症が原因の維持透析導入患者さんは、53.8%と全国平均より高い割合となっています。また、当院において糖尿病性腎症で維持透析導入となった患者さんのうち、71.4%が内シャントから透析導入しています。糖尿病センターと人工透析センターが早期に連携を図り、透析導入準備を適切な時期に行うことにより、患者さんの身体的、精神的な負担の軽減に役立っていると考えられます。

また、導入時平均年齢は男性が66.9歳、女性は69.7

歳、全体の平均年齢は67.8歳、当院においても男性67.0歳、女性77.7歳、全体では69.4歳と導入患者さんの高齢化が進んでいます。また、20年以上透析患者数は全国で22,403人と、前年度と比べ992人増加し、全透析患者の中の7.6%を占め、長期透析患者さんの増加傾向が明らかとなっています。

透析患者さんの高齢化、維持透析の長期化に伴い、アミロイドーシスや透析性骨症といった透析患者さん特有の合併症に加え、脳血管障害、心血管障害、悪性腫瘍などの多岐にわたる合併症を有する患者さんが増加し、それらの診断、治療も重要な位置を占めるようになりました。人工透析センターは、さまざまな科を有する総合病院で行う透析の利点を生かし、専門の他科と連携して、急性期治療が必要な合併症を持つ透析患者さんを受け入れています。脳血管障害や心血管障害、

術後などでCHDFを施行した回数は2011年度139回、2012年度88回、膠原病や肝疾患、消化器疾患を対象とした血漿交換やLCAP等の特殊血液浄化療法の

施行もそれぞれ154回、124回と急性期の血液浄化療法も積極的に行っています。

■主な診療実績

・維持透析患者数 84人
2013年3月31日現在

・維持透析導入患者

(急性腎不全、術後一時的導入を除く)

2011年度 20人

2012年度 26人

・特殊血液浄化療法施行回数

(2011年 4月1日～2013年3月31日)延べ回数

	2011年度	2012年度
LCAP	108	76
GCAP	7	3
血漿交換	17	30
エンドトキシン吸着	22	15
CHDF	139	88

認定施設

日本透析医学会認定施設

Dept. of Medical Center of Cognitive Disorders

認知症疾患医療センター

認知症は、早めの発見・早めの治療が大切です。

■診療担当医 ※2013年3月末日現在



理事・
認知症疾患医療センター長

井手 芳彦

(いで よしひこ)

長崎大学 昭和46年卒
日本神経学会認定専門医
日本内科学認定内科医
認知症サポート医

診療内容

全国的に増え続ける認知症患者さんに対応して、当法人では2009年10月に長崎県から「認知症疾患医療センター」の認可を受け、同年12月から診療を開始しました。

認知症専門医1名、精神保健福祉士2名、高次脳機能検査担当作業療法士(OT)1名、専任診療アシスタント1名、医療秘書1名、兼任看護師1名の総勢7名で運営しています。

認知症およびその疑いのある患者さんを診察し、確定診断と治療/介護方針を立て、地域の紹介元医師(かかりつけ医)、あるいは「認知症診療医」に紹介し、包括支援センター・介護施設へも誘導し、適切な治療と介護のアドバイスを行っています。

通常の診療では、ご家族から詳細な問診を行い、本

人の診察、高次脳機能検査、脳MRIかCTを施行します。場合によって、脳血流SPECT、MIBG心筋シンチグラムまで行います。

病歴と高次脳機能検査で直ちに診断がつく認知症もありますが、正常加齢か認知症初期かが判然としないMCIが最近増えてきました。周辺症状または行動・心理的症状(BPSD)を伴う患者さんの場合は、ご家族への適切な介護指導と、BPSDをやわらげる薬物処方や連携精神科病院への紹介を迅速にし、介護者の肉體・精神的負担を軽くすることを第一に考えています。

2011年春から夏にかけて、新しい認知症治療薬が3種類登場しましたので、これらの新薬を含め4種類の認知症治療薬について、認知症講演会や勉強会を開催し、市内の認知症診療医を中心に、新薬の適応や使い分けの研修を続けています。

診療実績

2012年4月～2013年3月の1年間で、ご家族から直接あるいは医療機関経由で初診385人、再診・定期フォロー合わせて931人の外来診察を行いました。また、電話・面接では年間817件の相談を受けました。2012年7月に開催された全国認知症疾患医療センター協議会の集計では、114病院の中で当センターの相談件数は全国20位、新規患者数は16位でしたので、当セン

ターも頑張っていると自負しています。

月曜日～木曜日は午前の4時間、金曜日は午後の3時間半を外来診療に当て、月平均32名の新規患者さんを診ています。鑑別診断の内訳は、正常加齢と認知症の境界(MCI)が15%、アルツハイマー型認知症(AD)が約50%、その80%以上はなんらかの血管障害(慢性脳虚血)を伴っています。レビー小体型認知症

(DLB)が17%、前頭側頭葉型変性症(FTLD)が8%です。純粋な血管性認知症は2%以下です。なかでもDLBとFTLDがじわりと増えてきました。DLBは心臓突然死が危惧され運動障害も加わりますので、他の認知症に比べて薬物治療・介護に気を遣います。FTLDはBPSDが最も出やすく、在宅での介護は実際上非常に困難です。しかし、新薬メマンチンの登場で、ある程度の段階までは在宅でも支障がなくなりました。

受診希望者は多いですが、予約から初診までの平均待ち期間が約2ヶ月と長いのが悩みの種です。2013年7月より、診察と検査を現在の1.4倍ほどのスピードでおこなえるような新体制を整備中です。

受診予約をして診療待ちのご家族、および確定診断

のついた患者さんのご家族を対象に、佐世保中央病院講義室で「認知症健康教室:メモリー・クラスルーム」を月一回行っています。認知症の基礎、介護の基礎、介護保険のしくみと介護施設の上手な利用法などを、我々スタッフが分担して2時間半ほど講義します。最後に「認知症の人と家族の会」に所属する介護経験者による介護体験記を聴いてもらいます。授業に参加したご家族からは、患者さんの心の中がよくわかるようになり対応がやさしくなった結果、患者さんのBPSDが少なくなり介護が楽になった、という声が多数聴かれるようになりました。今後は一般かかりつけ医の診療を受けている認知症患者さんの家族にも門戸を開き、より多くのご家族にこの授業を受けてもらいたいと考えています。

Dept. of Gastroenterological Endoscop

消化器内視鏡センター

がんの早期発見・早期治療に威力を発揮しています。

■診療担当医 ※2013年3月末日現在



副院長・
消化器内視鏡センター長

木下 昇
(きのした のぼる)

長崎大学 昭和57年卒 医学博士
日本内科学会認定医・指導医、日本消化器病学会専門
医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、九州支部
評議員、日本肝臓学会、日本肝癌研究会、日本感染症
学会ICD(インフェクションコントロールドクター)



診療部長

小田 英俊
(おだ ひでとし)

長崎大学 昭和62年卒 医学博士
日本内科学会認定医・指導医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医



医長

松崎 寿久
(まつざき としひさ)

長崎大学 平成14年卒
日本消化器病学会専門医
日本肝臓学会専門医
日本内科学会認定内科医



医員

山道 忍
(やまみち しのぶ)

長崎大学 平成18年卒



医員

大石 敬之
(おおいし たかゆき)

2013年5月退職

愛知医科大学 平成21年卒



医員

澤瀬 寛典
(さわせ ひろのり)

2013年4月就勤

長崎大学 平成23年卒

診療内容

全機種ハイビジョン対応の上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡を用いて、消化管(食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、S状結腸、直腸)と胆嚢、胆管、膵臓に疾患をもつ患者さんのスクリーニング検査と診断および内視鏡的治療を行っています。主な内視鏡的治療は以下のとおりです。

- ・全消化管に対する内視鏡的止血術
- ・食道静脈瘤に対する結紮術
- ・早期食道がんおよび早期胃癌に対するESD
(内視鏡的粘膜下層剥離術)
- ・大腸ポリープ、早期大腸癌に対するESDおよびEMR(内視鏡的ポリープ切除術)

・上部消化管狭窄や胆道悪性腫瘍に対する
拡張術胃瘻造設術

- ・異物除去
- ・閉塞性黄疸に対する内視鏡的胆道ドレナージ術
- ・内視鏡的総胆管結石除去術

肝臓病では、ウイルス性肝炎の診断及びインターフェロンを中心とした治療肝細胞癌に対する超音波下、腹腔鏡下エタノール局注療法及びラジオ波焼灼療法を行っています。

診療実績

食道、胃、十二指腸に対する上部消化管検査は、年間2,044件(2012年度実績)実施し、うち420件に前述したような内視鏡的治療を行っています。小腸、大腸、S状結腸、直腸に対する下部消化管検査は、年間1,131件(2012年度実績)実施し、うち約270件に上記のような内視鏡的治療を行っています。

当院は佐世保市指定二次救急輪番病院であり、年間を通して、昼夜を問わず消化管出血などの患者さん

が搬送されてきます。当科では、チーム内でオンコール体制をとり、緊急の症例にも対応しています。

近年の内視鏡による診断・治療手技の飛躍的な進歩により、胃がんや大腸がんは、早期がんの段階で発見できれば、治療することによりほぼ100%完治できるようになっています。異常を自覚したり、健康診断で精密検査を進められたりした方は、躊躇されることなくできるだけ早いうちに当科を受診されることをおすすめします。

■主な診療実績

上部消化管内視鏡検査	4,916件
下部消化管内視鏡検査	1,156件
上部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	47件
下部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	59件
上部内視鏡的粘膜切除術(EMR)	3件
下部内視鏡的粘膜切除術(EMR)	211件
内視鏡的止血術	180件
内視鏡的胃瘻造設術(PEG)	10件
内視鏡的拡張術	5件
内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)	10件

カプセル型小腸内視鏡検査	6件
内視鏡的胆道治療(ERBD/EST)	153件
超音波内視鏡検査(EUS)	51件
内視鏡的異物除去術	12件
肝生検	46件
ソナゾイド造影エコー	31件
エタノール局注療法(PEIT)	23件
ラジオ波焼灼療法(RFA)	
インターフェロン治療導入	13件
B型肝炎核酸アナログ導入	19件

認定施設

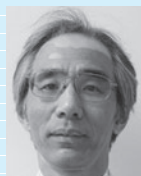
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本消化器病学会認定施設

Health Care Center

健康増進センター

がんや生活習慣病の早期発見を目指し、予防医学活動を行っています。

診療担当医 ※2013年3月末日現在



センター長
健康管理部部長
中尾 治彦
(なかお はるひこ)

長崎大学 昭和54年卒 医学博士
日本人間ドック学会正会員 認定医 健診情報管理指導士
日本外科学会専門医 指導医
日本消化器病学会専門医
日本消化器外科学会認定医
九州予防医学研究会理事



特別顧問
石丸 忠之
(いしまる ただゆき)

長崎大学 昭和42年卒 医学博士
日本産科婦人科学会名誉会員 専門医
日本産婦人科内視鏡学会名誉会員
日本産婦人科手術学会功労会員
日本エンドメトリオース学会顧問
絨毛性疾患研究会顧問
日本医師会認定産業医



部長
寺園 敏昭
(てらその としあき)

長崎大学 昭和59年卒



医師
*神経内科(診療部長)と兼任
竹尾 剛
(たけお ごと)

長崎大学 昭和59年卒 医学博士
日本神経学会専門医 指導医
日本内科学会認定内科医
日本医師会認定産業医



医師
*リウマチ・膠原病センター長
(センター長)と兼任
寺田 馨
(てらだ かおる)

長崎大学 昭和60年卒 医学博士
長崎大学臨床教授
日本リウマチ学会専門医
日本内科学会認定内科医

非常勤
松永 陽一
(まつなが よういち)

日本医師会認定産業医
日本体育協会スポーツドクター
日本医師会認定健康スポーツ医

非常勤
野々下 晃子
(ののした あきこ)

日本産科婦人科学会専門医

非常勤
橋爪 聡
(はしづめ さとし)

日本外科学会専門医
日本ヘリコバクター学会認定医
日本医師会認定産業医

非常勤
板倉 英世
(いたくら ひでよ)

金沢大学 昭和38年卒 医学博士
長崎大学名誉教授
日本医師会認定産業医

非常勤
山本 美保子
(やまもと みほこ)

佐賀医科大学 平成19年卒

基本理念・基本方針

【基本理念】

受診者の健康を支援し、活力のある地域社会の実現に貢献します。

【基本方針】

1. 生活習慣病の早期発見と予防の啓発に努め、健康の維持・増進をサポートします。
2. 検査技術や診断機器の精度向上を常に心がけ、質の高い検診を提供します。
3. 特定健診・保健指導を通して、受診者のライフスタイルを考えた継続的な支援を行います。
4. すべてのスタッフが相互に協力・連携して、受診者の皆様に満足いただけるサービスを提供します。
5. 健診業務で得られた個人情報への守秘義務と、受診者ご自身の知る権利を遵守します。

施設沿革

設立：1996年4月1日
 沿革：1996年 前身となる白十字会医療社会事業部設立
 2002年 佐世保中央病院健康増進センターに改称
 （新館建設に伴い検査機器と環境の充実を図る）
 2008年 人間ドック学会健診施設機能評価認定取得

認定施設・指定

- ・人間ドック学会健診施設機能評価（Ver.2）認定施設
- ・マンモグラフィ検診画像認定施設
- ・健康保険組合連合会指定健診施設
- ・全国健康保険協会管掌健診指定施設

健診内容

健康増進センターは、佐世保中央病院に併設された健診施設で、2002年にそれまでの白十字会医療社会事業部から、新たにゆとりのある空間での快適な受診環境へと整備されました。

ドック基本項目の上部消化管検査と乳がん子宮がん検診などを除いては、ワンフロアで受診可能な環境となっています。人間ドック健診をはじめ、様々な健診において、日本消化器病専門医、日本医学放射線学会専門医、日本内科学会認定内科医、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師などの各専門スタッフが担

当し、健診の質の確保を図っています。

中尾は主として消化器系及びがん検診、石丸は婦人科系、寺園は主として呼吸器系と内科全般、竹尾は脳ドック、寺田・松永・山本・板倉は内科一般、橋爪は内視鏡、野々下は婦人科を担当しております。

2008年12月、運営の合理性など第三者が評価する人間ドック学会の健診施設機能評価を受審し、認定を取得することができました。これからも、業務内容や環境の両面で見直しを行い、受診者目線で、質とサービスの向上に取り組んでいきたいと考えています。

健診実績

	2010年度	2011年度	2012年度
日帰りドック	1,506	1,618	1,493
宿泊ドック	348	328	354
健診受診者総数	16,807	14,032	15,180

健診検査別実施数

検査名	実施数
胸写	7,183
心電図	5,630
胃内視鏡	2,872
腹部超音波	2,202
胃透視	1,965
肺CT	624

検査名	実施数
便潜血	5,173
子宮頸部	2,818
マンモグラフィ	2,381
乳腺超音波	379
脳MRI	345
子宮体部	170

学会発表実績

循環器内科

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2012年 6月30日	第112回日本循環器学会 九州地方会	QT短縮症候群頻度および予後 ～早期再分極症候群型心電図との関連～	高原 靖
		上室性頻拍を契機に発見された 心臓原発悪性リンパ腫の一例	赤司 良平
		大動脈弁置換術後に発症した 一過性房室ブロックの一症例	橋本 亘
2012年 7月12日	第21回日本心血管インターベン ション治療学会学術集会	AMI地域連携パス病棟看護師の意識調査と 連携医療機関での反応について	大田たまき
		AMI地域連携パス使用から5年 連携医療機関の反応と問題点	大久保浩子
2012年 7月13日	第21回日本心血管インターベン ション治療学会学術集会	佐世保中央病院AMI連携パスにおける リハビリテーションの現状と今後の課題 -連携医療機関向けアンケートを実施して-	小川 弘孝
		ネイティブ冠動脈の新規狭窄病変における 薬剤溶出性ステント留置後の炎症マーカーと ステント内遠隔期損失径の相関関係の考察	松尾 崇史 木崎 嘉久
2012年 7月14日	第21回日本心血管インターベン ション治療学会学術集会	虚血性心疾患地域連携パス(AMI/PCI連携パス) 使用後の課題:当院における5年間の経験より (パネルディスカッション-10)	木崎 嘉久
2012年 9月1日	第19回日本心血管インターベン ション治療学会 九州・沖縄地方会	パーフュージョンバルーンにて加療したAMI2症例	赤司 良平
2012年 9月15日	第60回日本心臓病学会学術集会	QT短縮症候群頻度および予後	高原 靖

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー	演題	講師
2012年 9月29日	第3回長崎心臓リハビリテーション 研修会	虚血性心疾患の運動療法	木崎 嘉久
2012年 10月18日	第147回経過報告会	新規抗凝固薬について	中尾功二郎
2012年 11月21日	心不全学術講演会	当院におけるトルバプタンの使用経験	高原 靖
2012年 11月29日	第43回県北臨床循環器懇話会	長崎県県北地域におけるshort QT syndromeの 頻度および予後	高原 靖

座長・コメンテーター

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2012年 4月6日	第5回県北周術期管理 懇話会	冠動脈CT撮影におけるコアペー タの使用経験	佐世保中央病院 放射線技術部 村井 秀樹	木崎 嘉久
2012年 5月11日	Nobori 1周年記念講演会 in長崎	フォローUP症例提示 ディスカッション	長崎市立病院 内田 雄三先生 長崎大学病院 古賀 聖士先生 泉川病院 長野 政幸先生 嬉野医療センター 室屋 隆浩先生	木崎 嘉久
2012年 7月31日	冠動脈疾患の二次予防を 考える会	日本人における二次予防を目指し た脂質管理		木崎 嘉久
2012年 8月29日	県北サムス科学術講演会	心不全におけるトルバプタンの 役割	小倉記念病院 循環器科 副部長 有田 武史先生	木崎 嘉久
2012年 9月7日	抗凝固療法 小グループ講演会	プラザキサ症例紹介	えぐち内科ステーションクリニック 院長 江口 圭介先生	木崎 嘉久
2012年 9月24日	Heart Club			木崎 嘉久
2012年 11月9日	佐世保地区家庭血圧学術 講演会	診察室血圧と家庭血圧 高血圧治療にどのように役立てる のか	日本大学医学部 教授 同総合健診センター 所長 久代 登志男先生	木崎 嘉久
2012年 11月12日	県北Network Meeting 抗凝固療法における病診 連携をめざして	脳卒中診療医から見た抗凝固療法	佐世保市立総合病院 管理 診療部長 脳神経外科科長 上之郷 眞木雄先生	木崎 嘉久
2012年 11月15日	第148回 経過報告会			木崎 嘉久
2012年 11月21日	心不全学術講演会	心不全診療のパラダイムシフト -新規利尿薬の使い方-	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 循環病態制御内科学 教授 前村 浩二先生	木崎 嘉久
		当院におけるトルバプタンの 使用経験	佐世保中央病院 循環器内科 高原 靖	木崎 嘉久
2012年 11月26日	県北循環器連携パス学術 講演会	県央地区PCI地域医療連携パス の運用状況と今後について	岡循環器内科 院長 岡 浩之先生	木崎 嘉久
2013年 2月24日	日本不整脈学会 第5回植 込みデバイス関連冬季大会	ICD感知不全・不適切作動1		木崎 嘉久
2013年 3月2日	長崎・鹿児島PCIジョイント ライブ	右冠動脈の慢性完全閉塞(CTO) 病変		木崎 嘉久

論文

題 名	掲 載 誌	著 者
致死的心室頻拍を合併した膜性部心室瘤の 1例(共著)	日本内科学会雑誌,100巻1号 188頁-190頁,2011年01月	赤司 良平・小宮 憲洋 恒任 章・深江 学芸 芹澤 直人・前村 浩二 荒川 修司・松本 雄二 河野 浩章・早野 元信

症例検討会

会 期	会 議 名
2012年4月17日	第55回県北ハートカンファランス
2012年7月17日	第56回県北ハートカンファランス
2012年10月16日	第57回県北ハートカンファランス
2013年2月12日	第58回県北ハートカンファランス

世話人

世 話 人	会 の 名 称
木崎 嘉久	長崎県北肺高血圧症研究会、県北循環器連携パス

呼吸器内科

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発 表 者
2012年 4月25日	第86回日本感染症学会総会 学術講演会	当院における肺クリプトコックス症の7例の検討	小林 奨
2012年 4月26日	第60回日本化学療法学会 学術集会	呼吸器感染症患者におけるSBT/ABPCの先発医薬品と後発医薬品の同等性評価	佐道 紳一
2012年 11月6日	第82回日本感染症学会 西日本地方会学術集会	関節リウマチに合併した難治性肺非結核性抗酸菌症の1例	永松 雅朗
		肺非結核性抗酸菌症治療中に副腎不全の増悪をきたした1例	大島 一浩
		長崎県外への旅行歴のない糞線虫症の1例	小林 奨

著書

題 名	掲 載 誌	著 者
カルバペネム系薬の特徴は？ またどう使い分ければ良いのか？	臨床感染症ブックレット5巻(文光堂) pp110-112,所収2012	小林 奨

耳鼻咽喉科

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2012年 9月13日	佐世保市第220回 佐世保耳鼻科会	放射線治療後の喉頭出血の1例	大里 康雄
2013年 3月21日	佐世保市第222回 佐世保耳鼻科会	当院救急外来におけるめまい症例	大里 康雄

外科

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2012年 5月18～19日	第49回九州外科学会	AFP産生胆道癌の1例	重政 有
2012年 5月30日～6月1日	第24回日本胆肝膵外科学会 学術集会	AFP産生胆道癌の1例1剖検例	重政 有
2012年 6月28～30日	第20回日本乳癌学会学術総会	乳房温存術後同側に発生した乳癌症例の検討	佐々木伸文
2012年 6月29～30日	第99回日本消化器病学会 九州支部例会	大腸癌に伴う閉塞性大腸炎の5例	重政 有
2012年 7月18～20日	第67回日本消化器外科学会総会	閉塞性大腸癌手術症例の検討	重政 有
2012年 9月21日	第37回日本大腸肛門病学会 九州地方会	閉塞性大腸癌73例の検討	重政 有
2012年 11月16～17日	第67回日本大腸肛門病学会 学術集会	腸閉塞、腸穿孔を合併した大腸癌緊急手術例の 臨床的研究	重政 有
		転移リンパ節周囲の腸間膜リンパ節炎を契機に 診断された盲腸癌の1例	草場 隆史
2012年 11月29日～12月1日	第74回日本臨床外科学会総会	大腸癌手術症例に合併した閉塞性大腸炎5例の 検討	重政 有
		CT-colonography検査中に結腸穿孔を起こした 一症例	草場 隆史
		胃癌術後14年目の骨、骨髄転移の1例	武岡 陽介
2012年 12月15～16日	県北乳癌研究会	ステロイド内服で治癒した肉芽腫性乳腺炎の1例	佐々木伸文

脳神経外科

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2012年 5月15日	第109回 県北神経懇話会	急性硬膜下血腫を伴う皮質下出血で発症した Glioblastomaの一例	河井 伸一
2012年 6月23日	第111回 日本脳神経外科学会 九州支部会	急性硬膜下血腫を伴う皮質下出血で発症した Glioblastomaの一例	河井 伸一
2012年 7月5日	第5回 佐世保医師会病診連携 の会	脳卒中医療～急性期前方連携と慢性期再発予防	阪元政三郎
2012年 12月4日	第111回 県北神経懇話会	診断に苦慮した右前頭葉腫瘍の一例	河井 伸一

論文

題名	掲載誌	著者
Evaluation of the pharmacokinetics of linezolid in an obese Japanese Patient	Scandinavian Journal of Infections Diseases, 2012;44:626-629	Yasuhiro Tsugi, Yoichi Hiraki, Kana Matsumoto, Akiko Mizoguchi, Shinichi Sadoh, Tsutomu Kobayashi, Seisaburo Sakamoto, etc

心臓血管外科

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2012年 4月18日	第42回日本心臓血管外科学会 学術総会	ATS機械弁による人工弁置換術の 12年間遠隔成績	谷口真一郎
		開心術後心房細動に対する低用量塩酸ランジオ ロールの有効性と心拍数の検討	橋本 亘
2012年 5月11日	第16回日本救急医学会 九州地方会	下大静脈に穿破した腹部大動脈瘤破裂の1救命例	谷口真一郎
2012年 5月23日	第40回日本血管外科学会 学術総会	大動脈弁位機械弁置換術後の血栓閉鎖型B型大動脈 解離に対し、二期的ハイブリッド手術を施行した1例	谷口真一郎
		開心術後の心拍数管理について	橋本 亘
2012年 7月21日	第45回日本胸部外科学会 九州地方会総会	下行大動脈置換術後吻合部仮性瘤による 肺内穿破の1例	谷口真一郎
2012年 9月8日	第20回長崎救急医学会	腹部大動脈瘤に急性大動脈解離を合併した1例	中路 俊
2012年 11月22日	外科感染症学会	VACの使用経験	谷口真一郎
2012年 11月29日	第43回県北臨床懇話会	慢性大動脈解離に発症した線溶亢進型DICに 対する治療経験	谷口真一郎
2013年 1月23日	第27回日本心臓血管外科 ウィンターセミナー学術集会	冠動脈バイパス術後19カ月後に chronic expanding hematomaを生じた一例	中路 俊

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2012年 9月27日	第146回経過報告会	静脈血栓塞栓症の診断・治療・予防	谷口真一郎
2012年 10月4日	佐世保整形外科医会学術講演会	間歇性跛行症状における薬物療法	柴田隆一郎
2012年 11月10日	(株)オ一・エム・シー 社員研修会	心臓血管外科におけるチーム医療	谷口真一郎

座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2012年 6月15日	第42回県北臨床循環器 懇話会	心不全をともなう左室流出路狭窄 の外科治療	医療法人北関東循環器病院 院長 南 和友 先生	柴田隆一郎
2012年 10月27日	健脚を血管病から守る 公開シンポジウム	生活習慣病と動脈硬化	長崎大学保険・医療推進セ ンター 准教授 山崎 浩則 先生	柴田隆一郎
		下肢末梢動脈疾患(ASO)の診 断・治療～重症虚血肢の救肢をめ ざして～	虹が丘病院 血管外科部長 西 活央 先生	
		下肢静脈瘤の原因と治療法 ～たるさ、むくみ、つりの解消法～	ながさきハートクリニック 心臓血管外科部長 多田 誠一 先生	
		腰椎が原因の歩行障害	長崎大学医学部 整形外科 学教室 准教授 馬場 秀夫 先生	

世話人

世話人	会の名称
柴田隆一郎	第5回県北周術期管理懇話会

論文

題名	掲載誌	著者
脊椎炎を合併した感染症腹部大動脈瘤の1例	日本血管外科学会雑誌21巻 第2号 Jpn Vasc Surg 2012:21:137-140	橋本 巨・谷口真一郎 柴田隆一郎
動悸を契機に発見された右室起源脂肪腫に対する1手術例	心臓 第44巻 第6号	橋本 巨・谷口真一郎 柴田隆一郎・木崎 嘉久 米満 伸久

小児科

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2012年 4月8日	第186回日本小児科学会 長崎地方会	川崎病急性期の血清および尿中 $\beta 2$ ミクログロブリン値の乖離について	山田 克彦
		不登校に至った起立性調節障害35例の検討	犬塚 幹
2012年 5月10日	県北小児科医会 学術講演会	小児気管支喘息ガイドラインの改訂に 対応するための取り組み	山田 克彦
		不登校に至った起立性調節障害35例の検討	犬塚 幹
2012年 5月17~19日	第54回日本小児神経学会 学術集会	小児片頭痛30例の検討	犬塚 幹

皮膚科

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2013年 3月7日	佐世保地区皮膚科懇話会	佐世保中央病院 皮膚科 紹介症例について	山口 宣久

座長

会期	講演会・セミナー名	演題	座長
2012年 9月7日	佐世保地区皮膚科懇話会	佐世保中央病院 皮膚科 紹介症例について	山口 宣久

放射線科

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2012年 6月10日	第175回日本医学放射線学会 九州地方会	結腸癌の術前CT-colonography検査で 腸管穿孔を起こした一例	堀上 謙作
2012年 7月14日	第35回長崎県北消化器癌研究会	CT colonographyの画像を利用した 大腸癌・直腸癌の深達度診断の試み	堀上 謙作
2012年 8月11日	第25回九州・山口ハイパーサーミア 研究会	温熱化学療法が有効であった悪性腹膜中皮腫の 一例	平尾 幸一

講習会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2012年 4月13日	第5回テクマトリクス株式会社 医療情報システム事業部ユーザー会	社会医療法人財団白十字会における医療情報の BCPIについて	平尾 幸一
2012年 9月13日	総合メディカル会員セミナー	地域医療支援病院認定への取り組みとこれからの 在宅医療連携のあり方	平尾 幸一
2012年 9月20日			
2012年 11月10日			
2012年 11月16日	「民間病院を中心とした医療情報 連携フォーラム」 平成24年度第9回MIRF公開討論会	研修医向けティーチングファイルの開発 「いつでもどこでもMy Teaching Files」	平尾 幸一

糖尿病センター

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2012年 5月17～19日	第55回日本糖尿病学会 年次学術集会	インスリン治療の承諾率を高める対話法の研究	松本 一成
		2型糖尿病における頸動脈病変と心血管イベントに 関する追跡研究	藤島圭一郎
2012年 8月26日	第7回臨床コーチング研究会 2012	コーチングを用いた糖尿病専門外来のアウトカム	松本 一成
2013年 1月12～13日	第16回日本病態栄養学会 年次学術集会	血糖自己測定2daysによる血糖コントロールの 改善	松本 一成
2013年 2月23日	臨床コーチング研究会 スキル アップセミナー in Matsuyama	エビデンスに基づく糖尿病コーチングの有用性	松本 一成
2013年 3月2日	糖尿病療法研究会 第36回研修会	あの人にはこう対応する 知って得するタイプ別コーチング	松本 一成

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2012年 4月10日	第3回医療面接コーチング セミナー	患者のタイプ別コーチング ～糖尿病コーチングの応用～	松本 一成
2012年 5月12日	佐賀東部医療面接コーチング 講演会	患者さんのやる気を引き出す技法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2012年 5月28日	長崎川棚医療センター 糖尿病インスリン療法セミナー	糖尿病の周術期の管理について	松本 一成
2012年 6月16日	第10回山鹿地区 糖尿病療養指導勉強会	目からうるこのコミュニケーション ～糖尿病コーチング～	松本 一成

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2012年 7月7日	ジョンソン・エンド・ジョンソン主催 「患者さんの行動が変わるSMBG 利用法」	患者さんの行動が変わるSMBG利用法	松本 一成
2012年 7月28日	第3回大分北部CDE 実践セミナー	糖尿病コーチング -基本となるコアスキルと、 患者のタイプ別応答法-	松本 一成
2012年 7月30日	日本イーライリリー WEBカンファ	佐世保中央病院におけるバイエッタのすすめ方と 使用成績	松本 一成
2012年 8月3日	ビクトーザ 症例検討会	GLP-1アナログ製剤ビクトーザ2年間の使用経験 ～処方される先生方へのアドバイス～	尾崎 方子
2012年 9月1日	第7回秋田県糖尿病看護を考える会	患者さんのやる気を引き出す特別な方法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2012年 9月19日	糖尿病チーム医療セミナー	患者さんのやる気を引き出す特別な方法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2012年 9月25日	第24回糖尿病診療を考える会	ガイドラインが推奨する治療方法	尾崎 方子
		ガイドラインの易しい解説	藤島圭一郎
2012年 11月20日	病棟血糖管理のためのセミナー	周術期の血糖管理～エビデンスと実際の指示の 出し方～	松本 一成
2012年 12月1日	ジョンソン・エンド・ジョンソン主催 「患者さんの行動が変わるSMBG 利用法」	患者さんの行動が変わるSMBG利用法	松本 一成
2012年 12月10日	サノフィ(株)社内研修レクチャー	ランタスとアビドラの有効性と安全性について ～症例を踏まえて～	松本 一成
2012年 12月11日	医療法人和仁会 和仁会病院職員研修会	周術期血糖管理(エビデンスと実際の指示の出し方)	松本 一成
2012年 12月15日	第4回大分県北部CDE 実践セミナー	透析予防指導のやり方～佐世保中央病院方式～	松本 一成
2013年 1月22日	糖尿病治療セミナー	患者さんが生きる行動目標の立て方 ～糖尿病の生活習慣改善のために～	松本 一成
		インレクチン関連薬による糖尿病治療 ～当院におけるジャヌビア錠203例の臨床成績を中心に～	藤島圭一郎
2013年 3月8日	糖尿病コーチングスキルアップ セミナー	患者さんのやる気を引き出す特別な方法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2013年 3月12日	鹿島藤津・武雄杵島地区医師会 学術講演会	患者さんのやる気を引き出す技法 ～糖尿病コーチングの基本スキル～	松本 一成
2013年 3月16日	ジョンソン・エンド・ジョンソン主催 「患者さんの行動が変わるSMBG 利用法」	患者さんの行動が変わるSMBG利用法	松本 一成
2013年 3月18日	すぐに役立つ糖尿病管理セミナー	患者さんのやる気を引き出す技法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2013年 3月19日	第25回糖尿病診療を考える会	動脈硬化性疾患予防ガイドライン(2012年版) 「診断」	尾崎 方子
		動脈硬化性疾患予防ガイドライン(2012年版) 「アプリ使用法」	藤島圭一郎
2013年 3月30日	第2回さくらフォーラム	糖尿病コーチングとエビデンス ～基本スキルと活用法～	松本 一成

リウマチ・膠原病センター

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2012年 4月26～28日	第56回日本リウマチ学会・ 学術集会	リウマチ治療における循環型医療連携 —信頼関係構築による連携機能の最大化—	植木 幸孝
2012年 5月31日	第13回長崎インフリキシマブ 研究会	当病院におけるレミケードの長期使用成績	植木 幸孝
2012年 7月4日	第35回県北膠原病研究会	関節リウマチにおけるミゾリビンの使用成績	植木 幸孝
2012年 7月11日	HUMIRAラインカンファレンス	病診連携とRA治療早期介入の重要性 ～HOPEFUL Studyを踏まえて～	植木 幸孝
2012年 9月15～16日	第44回九州リウマチ学会	当院でのRA患者におけるMTXの有効性	岩永 希
		当院関節リウマチ患者におけるエタネルセプト (ETA)投与5年間の有効性と安全性	西野 文子
2012年 10月26日	第21回県北リウマチ研究会	当院におけるインフリキシマブの使用経験	植木 幸孝
2012年 10月31日	第19回抗サイトカイン療法 研究会	インフリキシマブ治療が関節リウマチ診療に もたらしたもの～チーム医療と医療連携～	植木 幸孝
2012年 11月8～10日	第33回日本アフェレシス学会 学術大会	関節リウマチ(RA)に対する白血球除去療法 (LCAP)の効果発現におけるPentraxn-3 (PTX-3)の意義	植木 幸孝
2012年 11月14日	第3回長崎県北肺高血圧症 研究会	当院における膠原病性肺高血圧症診療の現状	植木 幸孝
2013年 1月18日	県北シェーグレン研究会	当院におけるシェーグレン症候群の医療連携の 取り組み	植木 幸孝
2013年 3月9～10日	第45回九州リウマチ学会	当院におけるイグラモチド(IGU)の使用経験	植木 幸孝

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2012年 5月18日	西諫早地区骨粗鬆症セミナー	ステロイド性骨粗鬆症に対する治療	植木 幸孝
2012年 6月12日	第3回県北自己免疫疾患 フォーラム	エンブレルの当院における使用成績	植木 幸孝
2012年 6月20日	第3回RA-BIO連携 WEBミーティング	RAの薬物療法における時計遺伝子の活用	植木 幸孝
2012年 6月22日	Biologics User's Meeting —抗TNF製剤のBest Use—	関節リウマチ最新治療 ～当院におけるBio製剤の使い分け～	植木 幸孝
2012年 8月2日	アバタセプト適正使用セミナー in Nagasaki	当院におけるオレンシアの使用経験	植木 幸孝
2012年 8月3日	東予ナースセミナー	当院におけるレミケード投与の実際 ～関節リウマチ治療において看護師の果たす役割～	植木友里子
2012年 8月28日	佐世保中央病院フォーラム	当院におけるリカルボン50mg錠の使用成績	植木 幸孝
2012年 9月6日	ステロイド性骨粗鬆症を考える会	ステロイド性骨粗鬆症に対する最近の知見 ～2011年版ガイドラインを踏まえて～	植木 幸孝
2012年 9月18日	第2回長崎県肺高血圧治療 懇話会	当院におけるレバチオ錠の使用経験	植木 幸孝
2012年 9月21日	骨粗鬆症フォーラム	ステロイド性骨粗鬆症患者に対するビスフォスフォ ネートMonthly製剤の使用経験	植木 幸孝

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2012年 10月4日	学術講演会	関節リウマチ患者における当院でのネキシウム 使用経験	植木 幸孝
2012年 10月29日	武雄杵島・鹿島藤津地区医師会 学術講演会	膠原病専門医としての肺高血圧症診療のポイント	植木 幸孝
2012年 11月8日	Biologics User's Forum on RA in 長崎	当院におけるゴリムマブの使用経験	植木 幸孝
2012年 11月15日	佐世保整形外科医会学術講演会 (Bone Anabolic Conference in SASEBO)	当院における骨形成促進剤の使用成績	植木 幸孝
2012年 12月6日	第2回南房総リウマチ治療 病診連携勉強会	リウマチ治療におけるアクテムラの位置付けと リウマチ医療連携	植木 幸孝
2012年 12月17日	リウマチ医療連携講演会 in Matsuura ～2nd announcement～	当院におけるアバタセプトの使用経験	岩永 希
		リウマチ治療における循環型医療連携について ～信頼関係構築による連携機能の最大化を目指して～	植木 幸孝
2013年 1月26日	アクテムラ学術講演会in2003	リウマチ治療における病診連携と薬剤師が 必要とされる要件	植木 幸孝
2013年 2月15日	上五島地区地域連携学術講演会	ステロイド性骨粗鬆症に対する最近の知見 ～2011年版ガイドラインを踏まえて～	植木 幸孝
2013年 3月14日	ステロイド性骨粗鬆症を考える会	ステロイド性骨粗鬆症に対する最近の知見 ～2011年版ガイドラインを踏まえて～	植木 幸孝
2013年 3月22日	佐世保中央病院フォーラム	当院におけるアクテムラの使用経験	植木 幸孝
2013年 3月28日	直方・鞍手地区リウマチ勉強会	リウマチ治療における循環型医療連携について ～信頼関係構築による連携機能の最大化を目指して～	植木 幸孝

座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2012年 7月19日	長崎リウマチネットワーク 研究会	「関節リウマチ患者に対する エタネルセプト治療経過における 関節エコー所見の改善」	長崎大学病院第一内科 助教授 川尻 真也 先生	植木 幸孝
2012年 8月29日	若手医師RA画像診断 セミナー	超音波hands on seminar	長崎大学病院第一内科 助教授 川尻 真也 先生	植木 幸孝
2012年 10月6日	Biologics User's Meeting ー抗TNF皮下注製剤の Best Useー	「Golimumab治療の戦略的アプ ローチ」	慶応義塾大学医学部 リウマチ内科 亀田 秀人 先生	植木 幸孝
		「実診療におけるGolimumabの パフォーマンス ～Best Useを目指して～」	東京女子医科大学東医療セ ンター整形外科・リウマチ科 神戸 克明 先生	
2012年 10月18日	アダリムマブ4周年記念 講演会	「関節リウマチ治療における 生物学的製剤のベストユース ーアダリムマブを中心にー」	市民の森病院膠原病・リウマ チセンター所長 日高 利彦 先生	植木 幸孝
2012年 11月29日	第10回トシリズマブ 適正使用研究会	「Bio-naive早期関節リウマチ患者 に対するトシリズマブ治療による 画像所見の改善」	長崎大学病院第一内科 助教授 川尻 真也 先生	植木 幸孝
2013年 1月12日	佐世保関節エコー勉強会	「当院における関節エコーの 取り組みと生物学的製剤の現状」	北海道内科リウマチ科病院 理事長 谷村 一秀 先生	植木 幸孝

論文

題 名	掲 載 誌	著 者
長崎県内での関節リウマチ市民公開講座の取り組みと問題点について	臨床リウマチ (日本臨床リウマチ学会雑誌)別冊 2012年6月発行 Vol.24/No.2	中村 英樹・川上 純・右田 清志 植木 幸孝・塩塚 順・江口 勝美
悪性腫瘍を合併したRS3PE症候群の9例の検討	臨床リウマチ (日本臨床リウマチ学会雑誌)別冊 2012年9月発行 Vol.24/No.3	折口 智樹・有馬 和彦・川尻 真也 古賀 智裕・玉井 慎美・山崎 聡士 中村 英樹・川上 純・塚田 敏昭 宮下賜一郎・荒牧 俊幸・溝上 明成 古山 雅子・河部庸次郎・岩永 希 寺田 馨・植木 幸孝・福田 孝昭 江口 勝美
五穀玄米粉(湿式焙煎)に潜む栄養力と抗酸化能:高ORAC値に期する機能性	医学と生物学 第157巻 第1号 2013年1月	阿久津和夫・森 宏之・柳沢 昊永 茅原 紘・植木 幸孝・平方 尚之 今里 孝宏・足立 哲夫・下村 弘治 前畑 英介
玄米の抗酸化力 ～体内ストレスと被曝の改善策として～	FOOD STYLE21 Vol.16 No.6/2012	前畑 英介・谷山 松雄・植木 幸孝 今里 孝宏・矢野 正生・井越 尚子 下村 弘治・柳沢 昊永・阿久津和夫
関節リウマチ(RA)患者の酸化ストレス度:ものさし" GAP化"の導入とその応用について—"Sampled Studies"のアプローチ—	生物試料分析 Journal of Analytical Bio-Science 2012 Vol.35 No.3	今里 孝宏・植木 幸孝・平方 尚之 黒田 直敬・岸川 直哉・矢野 正生 柴 輝男・大西 紀子・井越 尚子 下村 弘治・足立 哲夫・鈴木 直季 谷山 松雄・前畑 英介
Impact of tocilizumab therapy on antibody response to influenza vaccine in patients with rheumatoid arthritis	Ann Rheum Dis 2012;71:2006-2010. doi:10.1136/ annrheumdis-2012-201950	Shunsuke Mori, Yukitaka Ueki, Naoyuki Hirakata, Motohiro Oribe, Toshihiko Hidaka, Kazunori Oishi
Pneumococcal polysaccharide vaccination in rheumatoid arthritis patients receiving tocilizumab therapy	ARD Online First, published on January 23,2013 as 10.1136/ annrheumdis-2012-202658	Shunsuke Mori, Yukitaka Ueki, Yukihiro Akeda, Naoyuki Hirakata, Motohiro Oribe, Yoshiki shiohira, Toshihiko Hidaka, Kazunori Oishi
Tocilizumab-induced hyperbilirubinemia in Japanese patients with rheumatoid arthritis:its association with UDP glucuronosyltransferase 1A1 gene polymorphisms	Mod Rheumatol (2012)22:515-523 DOI 10.1007/s10165-011-0537-1	Shunsuke Mori, Kaoru Terada, Yukitaka Ueki
High serum matrix metalloproteinase 3 is characteristic of patients with paraneoplastic remitting seronegative symmetrical synovitis with pitting edema syndrome	Mod Rheumatol (2012)22:584-588 DOI 10.1007/s10165-011-0556-y	Tomoki Origuchi, Kazuhiko Arima, Shin-ya Kawashiri, Mami Tamai, Satoshi Yamasaki, Hideki Nakamura, Toshiaki Tsukada, Toshiyuki Aramaki, Masako Furuyama, Taiitiro Miyashita, Yojiro Kawabe, Nozomi Iwanaga, Kaoru Terada, Yukitaka Ueki, Takaaki Fukuda, Katsumi Eguchi, Atsushi Kawakami

題 名	掲 載 誌	著 者
Drug retention rates and relevant risk factors for drug discontinuation due to adverse events in rheumatoid arthritis patients receiving anticytokine therapy with different target molecules	Ann Rheum Dis 2012;71:1820-1826. doi:10.1136/annrheumdis-2011-200838	Ryoko Sakai, Michi Tanaka, Toshihiro Nanki, Kaori Watanabe, Hayato Yamazaki, Ryoji Koike, Hayato Nagasawa, Koichi Amano, Kazuyoshi Saito, Yoshiya Tanaka, Satoshi Ito, Takayuki Sumida, Atsushi Ihata, Yoshiaki Ishigatsubo, Tatsuya Atsumi, Takao Koike, Atsuo Nakajima, Naoto Tamura, Takao Fujii, Hiroaki Dobashi, Shigeto Tohma, Takahiko Sugihara, Yukitaka Ueki, Akira Hashiramoto, Atsushi Kawakami, Noboru Hagino, Nobuyuki Miyasaka Masayohi Harigai for the REAL Study Group
Time-Dependent Increased Risk for Serious Infection From Continuous Use of Tumor Necrosis Factor Antagonists Over Three Years in Patients With Rheumatoid Arthritis	Arthritis Care & Research VOL.64,No.8,August 2012, pp1125-1134 DOI 10.1002/acr.21666	Ryoko Sakai, Yukiko Komano, Michi Tanaka, Toshihiro Nanki, Ryoji Koike, Hayato Nagasawa, Koichi Amano, Atsuo Nakajima, Tatsuya Atsumi, Takao Koike, Atsushi Ihata, Yoshiaki Ishigatsubo, Kazuyoshi Saito, Yoshiya Tanaka, Satoshi Ito, Takayuki Sumida, Shigeto Tohma, Naoto Tamura, Takao Fujii, Takahiko Sugihara, Atsushi Kawakami, Noboru Hagino, Yukitaka Ueki, Akira Hashiramoto, Kenji Nagasaka, Nobuyuki Miyasaka, AND Masayoshi Harigai for the REAL Study Group

人工透析センター

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発 表 者
2012年 6月22~24日	第57回日本透析医学会学術集会・総会	肝硬変に特発性細菌性腹膜炎を合併した血液透析患者の1例	浪江 智

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2012年 4月17日	第6回長崎腎よろずセミナー	肝硬変に特発性細菌性腹膜炎を合併した血液透析患者の1例	浪江 智

認知症疾患医療センター

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2012年 7月10日	認知症エキスパート研究会	リバスチグミンパッチ剤研究会	井手 芳彦
2012年 7月20日	長崎嚥下リハビリ研究会	認知症と摂食嚥下障害	井手 芳彦
2012年 8月3日	長崎県キャラバンメイト研修会	認知症の基礎と臨床	井手 芳彦
2012年 9月23日	認知症エキスパート研究会	ガラントミン研究会	井手 芳彦
2012年 10月5日	長崎県認知症疾患センター 協議会	事例検討「レビー小体型認知症」	井手 芳彦
2012年 11月13日	鳥原口之津医師会 認知症講演会	認知症の早期発見と治療	井手 芳彦
2012年 11月23日	長崎嚥下リハビリ研究会	スキルアップ研修会「認知症患者の摂食嚥下障害事例」	井手 芳彦
2012年 11月30日	青洲会病院 認知症研修会	認知症の早期発見と治療	井手 芳彦
2012年 12月14日	北松地区認知症勉強会	認知症の中核症状と行動心理症状(BPSD) ～適切な薬物療法～	井手 芳彦
2013年 2月1日	もみじが丘自治会健康講話	認知症の予防	井手 芳彦
2013年 2月15日	第19回白十字会Institute 認知症市民フォーラム	認知症の基礎知識	井手 芳彦
2013年 3月12日	13日会・講話	認知症について	井手 芳彦
2013年 3月26日	認知症診療医研究会	ガラントミン研究会	井手 芳彦

座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2012年 8月9日	認知症講演会	認知症の地域連携	長寿医療研究センター 遠藤 英俊 先生	井手 芳彦
2012年 10月19日	認知症講演会	認知症の早期診断と治療	神戸 うえき認知症クリニック 院長 植木 昭紀 先生	井手 芳彦
2012年 10月28日	認知症講演会	認知症の新たな治療戦略	佐賀大精神科 教授 門司 晃 先生	井手 芳彦
2013年 1月31日	認知症講演会	認知症の治療戦略	金沢大学神経内科 教授 山田 正仁 先生	井手 芳彦
2013年 2月26日	認知症講演会	認知症の新治療薬	岡山大学 教授 阿部 康二 先生	井手 芳彦

主催

会 期	会の名称	主催者
2012年 9月12日	認知症疾患センター連携協議会	井手 芳彦

消化器内視鏡センター

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2012年 11月2～3日	第100回日本消化器病学会 九州支部例会	解離性上腸間膜動脈瘤破裂により大量出血をきたした十二指腸憩室出血の一例	松崎 寿久
		連携バスを使用し、透析中のC型肝炎患者に対してIFN治療を行い著効した一例	佐藤 慧
		diverticular colitisの一例	永松 雅朗
2013年 3月21～23日	第99回日本消化器病学会総会	C型慢性肝疾患に対するIFN β 治療の有効性と安全性に関する検討	木下 昇

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2012年 8月9日	佐世保整形外科医会学術講演会	リウマチ疾患におけるB型肝炎再活性化リスク(リウマチ学会からの提言)	木下 昇
2012年 11月9日	佐世保外科医会学術講演会	B型・C型慢性肝炎の最近の治療	木下 昇
2013年 3月5日	フェロンMR研修会	フェロンの使用経験について	木下 昇
2013年 3月15日	佐世保敗血症治療講演会	リコモジュリンが有用であったDIC併発多房性肝膿瘍の一例	大石 敬之

健康増進センター

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2012年 7月6日	沖縄県産婦人科学会	逆流月経血と子宮内膜症	石丸 忠之

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2012年 10月13日	長崎県産業医研修会	子宮頸がん～ウイルス感染とワクチン接種～	石丸 忠之
2012年 10月30日	佐世保薬剤師会	卵巣機能低下・廃絶に対するホルモン補充療法(HRT)	石丸 忠之
2013年 3月22日	佐世保産婦人科医会	逆流月経血と子宮内膜症	石丸 忠之

座長

会期	講演会・セミナー名	座長
2012年 9月1日	第53回日本人間ドック学会学術大会	中尾 治彦
2013年 2月10日	第14回九州予防医学研究会学術大会	中尾 治彦